



THE REPORT OF THE MIE DENTAL ASSOCIATION

◆第20回三重県歯科保健大会

鈴木知事を交えパネルディスカッション

◆三重県総合博物館で

「生きる」の入り口「歯の博物館」開催

◆平成27年度東海信越地区歯科医師会等役員合同連絡協議会

◆第7回かむかむクッキングコンクール

◆平成27年度歯科医療関係者感染症予防講習会



公益社団法人
三重県歯科医師会
<http://www.dental-mie.or.jp/>

2015 2016
12 1
No. 677

三 重 県 歯 科 医 師 会 報

年頭にあたって 公益社団法人三重県歯科医師会会長 田所 泰	1
年頭所感 公益社団法人日本歯科医師会会長 山科 透	2
『“生きる”の入り口～歯の博物館～』	3
第20回三重県歯科保健大会	8
表 彰	14
平成27年度食と健康フォーラム・第7回かむかむクッキングコンクール	16
みえ歯ートネット通信（第32回日本障害者歯科学会総会及び学術大会）	19
平成27年度東海信越地区歯科医師会等役員合同連絡協議会	20
平成27年度歯科医療関係者感染症予防講習会	24
平成27年度社会保険指導者研修会	28
名古屋国税局管内税務指導者協議会	33
平成27年度第9回理事会（地域医療構想／三師会での意見交換について報告）	34
平成27年度第3回郡市会長会議（基金活用事業、計画通り実施へ）	36
平成27年度第10回理事会 （名張市で後期高齢者在宅訪問歯科健診モデル事業開始）	40
医療管理（マイナンバー安全管理に関する特例措置）	42
10月・11月会務日誌	43
会員消息／新入会員プロフィール	45
告 知 板 （ ・ 口もとの若さと美しさを保つアンチエイジングの実際 ・ 第2回医科・歯科連携推進人材養成研修会の開催について ）	47
会員の広場（第40回睦寿会総会・親睦会開催）	49
互助会の現況	50
平成27年6月・7月診療分歯科診療報酬状況	50
三重県歯科医師国民健康保険組合	52
編集後記	54

New Year Message 2016

年頭にあたって

公益社団法人 三重県歯科医師会

会長 田所 泰



新年明けましておめでとうございます。清々しい新年を迎え皆様方に謹んでお慶び申し上げます。

会員の皆様におかれましては、日頃より三重県歯科医師会事業にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

国は一昨年、医療介護総合確保推進法を制定しました。この法律は、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステムを構築」すること、地域において「効率的かつ質の高い医療提供体制を構築」することを二つの柱とするもので、これを実現するために消費税増収分を活用した地域医療介護総合確保基金が各都道府県に設置されました。

三重県歯科医師会はこの基金を利用した事業として地域口腔ケアステーションの構想を提案し、県行政より認められました。地域口腔ケアステーションは、地域包括支援センター・地域行政・介護関係事業所・病院はじめ医科医療機関・薬局と連携して訪問歯科医療・口腔ケアの基点として機能すべく各郡市歯科医師会に設置するもので、この事業の中心となるのがサポートマネージャーと在宅機器整備です。すでに予算措置を伴う事業が始まっていますが、各郡市歯科医師会の地域口腔ケアステーションでは、サポートマネージャーと在宅機器を有効に使って、地域の実情に沿ったシステムの構築をお願いします。

一方、効率的かつ質の高い医療提供体制を構築するために、地域医療構想策定作業が進捗中で、三重県では8地域の地域医療構想調整会議に、当該地域の郡市会長に参加していただいています。病床の医療機能整備が中心ですので、県下100床に満たない歯科が直接関係することは当初は少ないと思われますが、高度急性期・急性期の病床から回復期・慢性期の病床へ、さらに施設・在宅へと有病高齢者の療養先が移行すると想定されますので、調整会議においても医療・介護関係団体に地域口腔ケアステーション構想の周知をお願いします。

ここまで述べた超高齢社会に対応する事業の他にも、解決すべき課題は数多く存在します。まず、昨年7月に辻 哲会長の下で三重県警察歯科医会が発足しましたが、大規模災害等への対応も含めた警察等との新たな協力体制を構築する必要があります。また、日々の診療においても、がん治療患者・種々の疾患を抱えた患者の歯科治療等、医科をはじめ多くの関係職種との連携がますます必要となってきます。県歯科医師会としましては、一人の歯科医師あるいは歯科診療所だけでは対応が難しい問題に対して、できる限り支援するように努めます。会員の皆様の福祉厚生の向上と安定した診療所の経営のためのきめ細かい対策を図りつつ、併せて、必要な歯科医療従事者の確保・養成という視点から、各職種の資質向上のための研修事業及び良好な勤務環境の確保のための施策も行います。

本年が皆様方にとってより良き年となることを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

New Year Message 2016

年頭所感

公益社団法人 日本歯科医師会

会長 山科 透



新年おめでとうございます。会員の先生方におかれましては、お健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は本会の会務運営に格別のご理解、ご支援を賜りましたことを深く感謝いたしますとともに、本年も変わらぬご厚情を賜りたく、引き続きよろしくお願い申し上げます。

我が国の高齢化は世界に類を見ない速さで進み、超高齢社会に突入しました。医療の進歩や生活環境の改善等、我が国の優れた保健・医療システムにより日本人の平均寿命は延び、世界でもトップクラスの水準となり、人類誰もが願う長寿社会を現実のものとなりました。

国は、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進しています。歯科医師会はその中で、このシステムに多職種が連携した医療・介護の提供を念頭においた歯科医療の推進を図ることにより、国民が人生の最期まで住み慣れた地域で暮らせるように、食べる、話す、笑うなどの『健康を創り出す歯科医療』に変えていかなくてはなりません。特に期待されるものに「訪問歯科診療」「口腔健康管理」等があり、そのために必要な人材育成や体制づくりなどのインフラ整備に迅速に対応すべく、努めて参る所存です。

平成元年から展開している8020運動も国民の間に広く浸透してきた感があります。8020達成者（80歳で20本以上の歯を有する者）の割合は平成23年調査で38.3%と、平成17年の24.1%から大きく増加しており、これもひとえに会員の皆様方のご努力の結果であり、感謝申し上げます。日本歯科医師会は今後も、「歯科口腔保健の推進に関する法律」（歯科口腔保健法）に基づく基本的事項において、口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小のための具体的な目標値が“平成34年時点で8020達成者率50%”と示されていることを踏まえ、さらなる充実を目指して参ります。

超高齢社会において、胎児期から高齢期までの各ライフステージで適切な歯科医療が提供され、そして、国民が最期まで自分の口から食べ、健康を増進し、自立した生活ができるように、歯科口腔保健法や多くの都道府県や市町村で制定されている歯と口の健康に関する条例なども活用しながら、日本歯科医師会はこれからも全力で邁進し続ける所存であります。

本年が会員の皆様にとって良い一年になりますよう祈念申し上げます。

「生きる」の入り口 歯の博物館

平成27年11月3日（火・祝）
→11月15日（日）



27年11月3日（火・祝）から15日（日）、三重県総合博物館（愛称：MieMu）で同博物館と三重県歯科医師会による連携交流展示『“生きる”の入り口～歯の博物館～』が開催されました。

MieMuは26年4月に旧県立博物館に替わる施設としてオープン。三重の自然・歴史・文化に関する1,000点以上の資料をダイナミックに配した基本展示に加え、伊勢神宮や熊野古道等、地域の特徴を生かした企画展示等が話題を集め、同年6月には早くも入館者数10万人を記録する等、好調なスタートを切りました。「ともに考え、活動し、成長する博物館」を理念に掲げ、観察会やワークショップ等の体験型のイベントにも積極的で、三重県の子どもたちの新たな学びの場としても注目されています。

三重県歯では、毎年開催してきた三重県歯科保健大会が第20回の節目を迎えるに当たり、このMieMuで県民に歯や口の健康について楽しみながら学ぶ機会を提供したいと考え、今回の企画を立ち上げました。展示では、ミエゾウの牙や下顎骨をはじめとしたMieMuの収蔵物に加え、愛知県歯科医師会「歯の博物館」からお借りした貴重な歯科関係資料を揃え、歯の進化の過程や生き物の種類による歯の違い、歯を巡る行事や風習、歯科治療の歴史、むし歯や歯周病の成り立ち等、歯にまつわる様々なことがらを分かりやすく紹介しました。会期中には津歯科医師会や三重県歯科衛生士会等の協力を得て「キッズ歯科職業体験」をはじめとしたイベント等も実施、子どもたちの人気を集めました。この催しには、13日間の会期で延べ5,000名の県民が来場、三重県歯事業としては空前の成功を収めました。

（常務理事・太田賢志 記）



■ プロローグ 歯って何？

会場に入った来場者を出迎えるのはヒトの歯（切歯・犬歯・臼歯）の立体拡大模型（三重県歯科技工士会製作）。その大きさは実物の約80倍です。ヒトの歯には切歯・犬歯・臼歯があり、それぞれ用途に応じた形があることを巨大な模型で実感しながら、歯の構造や種類、乳歯や永久歯といった基本的なことからパネルで学びます。



■ 第1章 生き物の歯の不思議～歯の進化のものがたり～



第1章では歯の進化の過程が紹介されます。

まずは初期の魚類（無顎類）に見られる歯の起源となる構造（結節）や、サメやエイの仲間の“楯鱗（皮小歯）”を観察。両生類や爬虫類のコーナーでは、オオサンショウウオやナイルワニの歯が見られました。大きなアロサウルスの頭骨とともに展示されたのは、肉食恐竜のギザギザした歯。植物食恐竜には胃の中に臼歯の代わりに植物をすりつぶす「胃石」があったそうです。魚類・両生類・爬虫類では単純

な形だった歯が、哺乳類では様々な形に進化します。各種哺乳類の歯とともにオズボーンの三結節説もパネルで紹介されました。恐竜と並んで目を引いたのは、MieMuのシンボルでもあるミエゾウの牙と歯、その子孫であるアケボノゾウの下顎骨。ゾウの牙は肉食哺乳類とは異なり、犬歯ではなく切歯が長くなったもので、一生伸び続けるとのこと。ミエゾウの学名は *Stegodon miensis*（ステゴドン・ミエンシス）と言います。ステゴドンとはラテン語で屋根型の（*Stegēin*）歯（*Odoús*）という意味で、その歯が、屋根が並んでいるような形をしていることから名付けられています。



肉食哺乳類の歯は、肉を切り裂くのに都合の良い鋭い歯をしており、特にネコの仲間には臼歯でさえ切り裂くために特化した歯があることが分かります。一方の植物食哺乳類の歯は分厚く、植物をたくさんすりつぶして削れても大丈夫な歯に進化しました。現在のほとんどの哺乳類の歯は、切歯3本、犬歯1本、小臼歯4本、大臼歯3本、合計44本の歯を持つ先祖から進化しました。歯の形はそれほど特殊化せず、雑食性を示します。



第2章 歯の今昔物語

第2章では、歯にまつわる行事や風俗等を通じて、歯を巡る文化や歴史を紹介。取り上げられたのは、新生児の乳歯が生え始める生後100日目頃に行われる「お食い初め」や、正月に固いものを食べて歯を丈夫にし、長寿を祈る「歯固め」、抜けた乳歯を屋根の上や縁の下に投げる風習、化粧法の一つであったお歯黒等。展示物は『源氏物語』から、光源氏が紫の上にお歯黒をさせる場面のある第六帖「末摘花」と「歯固め」についての記述がある第二十三帖「初音」の版本。お歯黒については、その道具とともに歌川国芳の浮世絵『江戸錦今様国尽』から、お歯黒をした女性が描かれた伊勢・志摩の場面が並べられました。国芳作品ではユーモラスな『きたいなめい医難病療治』も併せて展示されました。



第2章後半は、愛知県歯「歯の博物館」の貴重な収蔵品を中心に歯科治療の歩みを紹介。歯木（しばく）・房楊枝（ふさようじ）と呼ばれる柳の枝等を加工した歯の清掃道具は、仏教の伝来とともに伝わったとのこと。江戸時代には粉状の歯磨剤が一般的で、房楊枝とセットで使われていたようです（鶴屋南北『東海道四谷怪談』には、お岩さまの妹・お袖が楊枝屋で働いている場面があります）。黄楊（つげ）等の木を用いて作られた木床義歯や19世紀以降に伝わったゴム床義歯等も展示、チューブ陶歯や遠心鑄造機、煮沸消毒器等も供覧されました。昭和9年に尾西歯科医師会が発行した歯科治療の料金表も興味深いもの。「歯牙清掃」「歯列矯正」「口蓋補綴術」等とともに「往診」についての料金も示されています（初・再診に当たる「宅診」のほぼ倍額でした）。



第3章 大切な歯

第3章では改めて、一生に一度しか生えてこない歯の大切さを伝えます。むし歯や歯周病のメカニズムを病態模型（歴史的なものも含む）やパネル等によって詳しく解説するとともに、現代の歯科治療について紹介。コンポジットレジン等の修復材料やクラウン・ブリッジ、金属床義歯、インプラント等の補綴装置、矯正装置等が展示されました。歯ブラシや歯磨剤等の口腔ケアグッズのコーナーでは、三重県のDMFT指数の推移もグラフで紹介し、むし歯・歯周病予防のためのセルフケアに努めることを呼びかけました。会場内では三重テレビで放送した、職業としての歯科衛生士を紹介するビデオを供覧した他、在宅医療における口腔ケアの意義について解説。ウィンドウディスプレイコーナーには卑弥呼の時代から現在までの復元食模型を展示しました。弥生・平安・鎌倉・室町・江戸・現代と、時代による食事の違いが分かりやすく示され、来場者の関心を集めました。





関連イベント

『“生きる”の入り口～歯の博物館～』開催期間中には、子どもたちを対象とした体験型の学習イベント等も開催されました。初日の3日(火・祝)には、交流展示室でギャラリートークを実施。MieMuの中川・天野両学芸員と津歯科医師会の前田会長がそれぞれ案内人を務め、約1時間にわたって展示物一つひとつを丁寧に解説。参加した子どもたちは一所懸命、トークに耳を傾けていました。



実習室では津歯科医師会・三重県歯科衛生士会による「キッズ歯科職業体験」が行われ、100名の子どもたちが参加しました。アルジネート印象材と石膏で指模型を製作した他、顎模型を使ってコンポジットレジン充填に挑戦。マネキンを使ってマイクロエンジンでの歯面清掃やバキューム操作も体験しました。



7日(土)には、交流活動室でライオン歯科衛生研究所による体験学習を実施。CCDカメラで撮影した口腔内の様子をモニタに映し出し写真を撮影。位相差顕微鏡を使って口腔内の細菌も観察しました。交流展示室では(株)モリタによる「カタナCAD/CAMシステム」のデモンストレーションが行われました。デンタルスキャナーが模型を読み取る様子や、歯科用ミリングマシンDMX-50がブロックから巧みにクラウンを削り出す様子を間近で見ることができ、訪れた県民や歯科関係者がともに興味深そうに見入っていました。



第20回 三重県歯科保健大会

平成27年11月8日（日）
三重県総合文化センター

「“生きる”の入り口～歯と口の役割を考える～」をテーマに



11月8日（日）、第20回三重県歯科保健大会が開かれました。あいにくの雨模様の日でしたが、会場となった三重県総合文化センター中ホールには、歯と口の健康週間各種事業や「いい歯の8020コンクール」の被表彰者、さらに三重県の歯科保健関係者が多数参集しました。第20回記念企画であるMieMuでの展示とも連携したテーマ「“生きる”の入り口～歯と口の役割を考える～」を掲げた今回は、様々なメディアを通じて歯と口の健康に関する知識を分かりやすく紹介している岡崎好秀氏（国立モンゴル医科大学歯学部客員教授）が「口の中はふしぎがいっぱい～世界で一番聞きたい歯と口の話～」と題して講演し、歯科医療が健康長寿を支える可能性を強調しました。岡崎氏は特別講演に先立って行われたパネルディスカッションにも参加し、三重県・鈴木英敬知事、三重県歯・田所 泰会長と意見を交わしました。岡崎氏は小児歯科医の立場から、児童虐待や孤食等、子どもたちの養育環境が歯と口の健康を危うくしている現状に警鐘を鳴らしました。これを受けて鈴木知事は、そうした視点も踏まえながら子育て支援に取り組む姿勢を示し、田所会長も歯科医療専門職として貢献したいと応じました。

式典

式典の冒頭、主催者を代表して三重県歯・田所泰会長、三重県・鈴木英敬知事、三重県教育委員会・山口千代己教育長がそれぞれ挨拶。来賓を代表して津市の前葉市長も挨拶した。

田所会長は大会メインテーマ「育み、よりそい、護る」の趣旨を説明するとともに、第20回の節目を迎えるに当たり、三重県総合博物館（MieMu）において『“生きる”の入り口～歯の博物館～』を併催、サブテーマも「“生きる”の入り口～歯と口の役割を考える～」とし、子どもから大人までが楽しみながら歯と口に関する知識を深め、健康づくりにつなげる機会となることに期待を寄せた。

鈴木知事は第20回大会が「いい歯の日」に開催されることを意義深く受け止めると述べたうえで、「みえ 歯と口腔の健康づくり条例」に則り、世代ごとの対策として、12歳児う蝕有病者率の改善を図るためのフッ化物応用の取組みや、高齢者在宅歯科健診の普及に意欲を示した。MieMuでの企画についても言及し、学芸員たちが工夫を凝らした展示を楽しんで欲しいと呼び掛けた。



山口教育長は、「食べる」「話す」という機能に関わる歯と口の健康が生活の質に直結するとの認識を示し、食育や望ましい生活習慣の確立等、学校歯科保健活動が子どもたちの生涯にわたる健康づくりに寄与できるよう健康教育の充実を図りたいと述べた。

津市・前葉泰幸市長は祝辞の中で、三重県後期高齢者医療広域連合長の立場から、昨年から始まった後期高齢者歯科健診について触れ、今後様々な形で歯科医師会と連携し歯と口の健康増進をサポートしたいとした。

パネルディスカッション

健康長寿の秘けつは歯とお口の健康づくりから

パネリスト

国立モンゴル医科大学歯学部・岡崎好秀客員教授

三重県・鈴木英敬知事

三重県歯科医師会・田所 泰会長

コーディネーター

三重県歯科医師会・中井孝佳副会長



パネルディスカッションでは、まず、県民が生涯自分の口でおいしく食べ、健康で過ごすために必要な視点について、パネリストがそれぞれの立場から発言した。

岡崎教授は、乳歯の多発性う蝕と8020達成者の口腔内を供覧し、乳歯のあり方が永久歯の状態に影響することを指摘。う蝕の多い小児に接した時、どのように介入すればその子どもが8020を達成できるかを考えるべきと説き、「乳歯は親の歯、

永久歯は子どもの歯」という言葉を挙げて子どものう蝕を減らすための対策を講じることが保護者を含めた社会の責任であるとした。

次いで、自身が育児に積極的に関わることで知られる鈴木知事が発言。三重県行政の歯科への取組みとして、県民一人ひとりが歯と口腔の正しい知識を持って、規則正しい生活習慣や正しい歯磨き習慣を身につけるよう、「みえ 歯と口腔の健康づくり条例」に基づき、ライフステージ別に対策を整備していると説明。特に子どもの歯科保健対策では、食育支援、生活習慣の改善、病気予防に取り組んでいることを示し(表1)、父親の育児参画の促進や児童虐待対策(要保護児童スクリーニング指数:MIESの取組み)についても言及した。

子どもの歯科保健対策		
食育支援	規則正しい生活習慣づけ	歯と口腔の病気予防
食習慣の改善 よく噛むことを考慮した、栄養バランスのとれた食習慣の推進。	歯みがき習慣 病気予防のための歯みがきを生活習慣の一部として習得。	むし歯の予防 年齢に応じた、フッ化物(フッ化物洗口など)の利用の推進。
よく噛むこと 口腔機能の健全な発育による全身の健康づくりの支援。	正しい生活習慣 規則正しい生活のリズム、食習慣など、健康づくりにつながる習慣の獲得。	歯肉炎の予防 生活習慣や食習慣の乱れの改善、正しい歯みがきの習慣の獲得を推進。
▼自ら進んで歯と口腔の健康を守る力を身につける ▼歯と口腔の健康づくりについての正しい知識、規則正しい生活習慣の獲得		

表1

田所会長は、専門職として歯科保健・歯科医療を担う立場から、8020達成に向けた出産前の妊婦から高齢者に至るまでの生涯を通じた健診事業の展開を示し、我が国での様々な施策により乳幼児期のう蝕有病率が大きく低下してきたと述べる一方で、地域格差を含む様々な健康格差が今後の課題であるとの認識を示した。

再びマイクを受け取った岡崎氏は、長く少年院での歯科健診・歯科治療に携わってきた経験に基づく知見も披露。乳歯う蝕が激減した現在でも10代で永久歯の多くが重篤なう蝕に至っている事例が少なくないと述べ、その様相からは乳歯の頃から多くのう蝕が存在した可能性が窺われ、当時の成育環境がその後の様々な結果をもたらしたと感じられると言う。24年の奈良県での調査では、

5～9歳の未処置歯本数は対照群の0.3に対し、被虐待児では3.0、被ネグレクト児では6.1本だった(図1)ことも紹介。少年院に収監されている子どもたちの約70%が虐待を受けていたとされたと述べ、孤食を強いられるような家庭環境が、歯と口の健康を蝕むだけでなく、反社会的な行動へ向かわせているのではないかと懸念を示した。

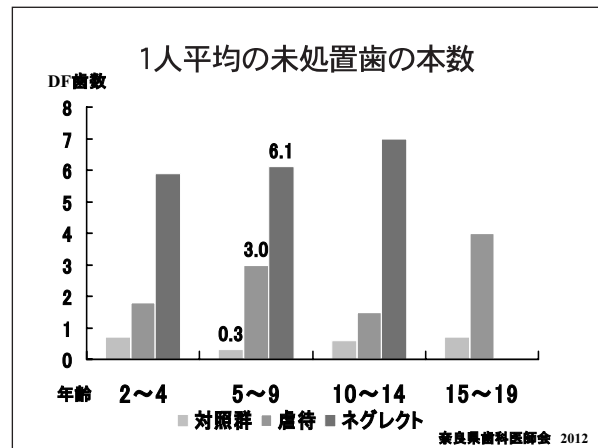


図1

鈴木知事は、三重県での具体的な取組みとして小・中学校におけるがん教育や、歯と口の健康週間に実施している「歯とお口の健康づくりキャンペーン」等を通じて、子どもの頃から規則正しい生活習慣を身につけることを伝えていると説明。また、子育て環境を守ることが歯と口腔の健康につながるとの認識(図2)から、食事時のテレビ視聴習慣や就寝時間とう蝕の関係等についての調査結果も紹介。子どもの貧困の実態把握及びそれへの対応も含めた多面的な対策が必要との認識を示した。

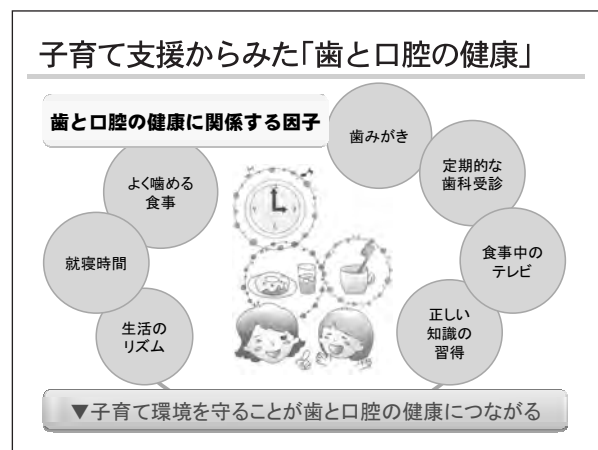


図2

最後に田所会長が、岡崎教授と鈴木知事が示した課題に対して必要な貢献ができる歯科医師を養成

成していくことが歯科医師会の役割であると応え、議論を締め括った。

特別講演

「口の中はふしぎがいっぱい～世界で一番聞きたい歯と口の話～」

国立モンゴル医科大学歯学部・岡崎好秀客員教授



特別講演としてパネルディスカッションに引き続いて岡崎好秀氏が登壇。様々なメディアを通じて歯と口の健康に関する知識を分かりやすく紹介している岡崎氏は、クイズ形式で観客に問いかけながら巧みな話術で聴衆を楽しませた。

まず、今までに最も多くの日本人に読まれた健康書として、江戸時代に古今東西の健康法を実践して84歳の長寿を得た貝原益軒の『養生訓』を紹介。同書には歯や口に関わる記載も多く、特に唾液の抗菌効果を活かして目薬に用いていたことが紹介されると会場からは驚きの声が上がった。

また、テレビアニメでおなじみの『サザエさん』では、食事の場面で卓袱台の上に湯飲み茶わんが見当たらず、食べ終わってから順次お茶を飲む様子が描かれていることも示された。これは原作漫画が描かれた昭和の時代には、食事を摂りながらお茶を飲む行為は行儀が悪いこととされていたからであり、その後の時代の変化の中で食事の最中にお茶や水、その他の飲料を頻繁に摂取する習慣が定着してきたと指摘。結果、「流し込み食べ」が横行し、本来は歯の再石灰化を含め、生体を守るための重要な役割を果たしている唾液を出す機能

が十分に発達しなくなっているのではないかと懸念を示した。唾液の減少は子どもだけではなく、加齢や様々な薬の副作用の結果として高齢者の問題でもあり、対応策としてよく噛むことや、舌や口をよく動かすことが挙げられた。

小児歯科を受診した子どもたちの保護者にアンケートを取り、①子どもが治療を受けられるかどうかの予測 ②間食の与え方（時間を決めているか、欲しがった時に与えているか）について尋ねたところ、両者に相関が見られたという結果も報告された。岡崎氏は「おやつとの与え方」という日常的な習慣の中に、子どもたちの「我慢する力」を育む効果があるとの見方を示し、肥満予防等も含めた健康づくりという観点からも重要であると述べた。

さらに、有名な上野動物園のロバの入れ歯（昭和30年代後半に石上健次歯科医師により製作された）から、総義歯ながら「一口30回噛む」を実践し、100歳を超えてなお活躍した福岡教育大学・昇地三郎名誉教授の話題へとつなぎ、歯科医療が健康長寿を支える可能性を強調した。

（広報情報委員・加藤直輝 記）

★ 歯と口の健康週間事業表彰



親と子のよい歯のコンクール（優秀者代表）
三村志帆さん・泰士くん（鈴鹿市）



よい歯の児童生徒表彰（最優秀）
青山颯太くん（松阪市）



歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール（最優秀）

（左から）【中学校】伊藤乃愛さん（尾鷲市）【幼稚園】小倉功大くん（津市）【小学校高学年】森 奏真くん（松阪市）【特別支援学級・学校】麻生和哉くん（亀山市）【小学校低学年】田中 怜さん（伊勢市）

麻生和哉くん（特別支援学級・学校）の作品は中央審査で全国優秀作品に選ばれました！

★ いい歯の8020コンクール表彰



三重県知事表彰
川瀬勝洋さん（四日市市）



三重県知事表彰
伊藤喜久子さん（鈴鹿市）



三重県知事表彰
荒井 伸さん（松阪市）



三重県知事表彰
草場 薫さん（津市）



三重テレビ放送表彰（おしどり賞）
高山國重さん・兎子さん（津市）

※ 三重県知事表彰受賞者のうち、岩田迪子さん（桑名市）は当日ご欠席でした。

★ 三重県歯科保健文化賞表彰

津市立大里小学校

津市立大里小学校は、「歯・口の健康づくり」事業を通し、口腔だけでなく生活全般に係る取り組みや、将来にわたって生きる力をはぐくむ指導に尽力した功績が認められ、今回の表彰となりました。

表彰

2015

叙勲・瑞宝双光章

楠崎 渥先生（伊勢）



楠崎 渥先生は、本年秋の叙勲で瑞宝双光章を受章されました。

永年にわたり、学校歯科医として、また、地域歯科医として、学校歯科保健の充実や地域の歯科保健の向上に献身的に取り組み、今なお自己研鑽に励む姿勢は、地域の人々はもとより、学校関係者や歯科医師会関係者からも敬愛され、今回の受章となりました。

元 三重県歯科医師会副会長

厚生労働大臣表彰

辻 哲先生（桑員）



辻 哲先生は、11月7日(土)に山梨県で開催された第36回全国歯科保健大会の席上、厚生労働大臣表彰を受賞されました。

永年にわたり、三重県歯科医師会役員を歴任。県民を対象とした歯科保健の啓発に取り組んだ他、コ・デンタルスタッフを含めた歯科医療専門職の資質向上に力を尽くし、感染予防対策をはじめとした安心で安全な医療提供体制の整備に果たした功績が評価され、今回の受賞となりました。

前 三重県歯科医師会副会長

文部科学大臣表彰

西岡秀穂先生（鳥羽志摩）



西岡秀穂先生は、12月3日(木)に愛媛県で開催された平成27年度全国学校保健・安全研究大会の席上、文部科学大臣学校保健及び学校安全表彰を受賞されました。

永年にわたり学校歯科医として学校関係者との綿密な連携の下に、児童・生徒のう蝕予防及び早期治療の徹底、歯と口の健康増進に尽力され、今回の受賞となりました。

元 志摩歯科医師会会長

日本歯科医師会長表彰

橋本 敏先生（津）



橋本 敏先生は、11月7日(土)に山梨県で開催された第36回全国歯科保健大会の席上、日本歯科医師会長表彰を受賞されました。

津歯科医師会会長として、関係機関・各種学会等と緊密に連携し、地域住民の生涯にわたる心身の健康に寄与する質の高い地域歯科医療の推進に努めたことに加え、三重県歯科医師会役員として、県内の歯科衛生士養成体制の整備に大きく貢献したことが評価され、今回の受賞となったものです。

元 三重県歯科医師会副会長

三重県 歯科衛生功労者 知事表彰

11月8日(日)、三重県総合文化センターで開催された第20回三重県歯科保健大会の席上で表彰が行われ、服部 修先生、長井雅彦先生が受賞されました。



服部 修先生（桑員）

永年にわたり桑員歯科医師会役員として、県民の歯科保健衛生の向上と予防に尽力し、また、学校歯科医として、児童・生徒のう蝕予防と口腔衛生の向上のための活動及び事業者健診も含む地域の歯科保健衛生の向上と普及に貢献した功績により、今回の受賞となりました。

元 桑員歯科医師会会長



長井雅彦先生（松阪）

永年にわたり学校歯科医として、児童・生徒のう蝕予防、口腔衛生管理等の充実に尽力し、また、松阪地区歯科医師会役員として、在宅での寝たきりの高齢者や、入院患者・施設入居者等の要支援者に対する訪問歯科診療の体制整備に貢献した功績により、今回の受賞となりました。

現 松阪地区歯科医師会会長

三重県 学校保健功労者 知事表彰

11月19日(木)、四日市市文化会館で開催された第59回三重県学校保健安全研究大会の席上で表彰が行われ、本会からは武山 一先生、畑中嗣生先生が受賞されました。



武山 一先生（四日市）

永年にわたり児童・生徒の口腔衛生の普及と向上に尽力し、障害者歯科医療へも積極的に取り組んでいる功績により、今回の受賞となりました。

元 三重県歯科医師会理事



畑中嗣生先生（松阪）

永年にわたり学校歯科医として児童・生徒のう蝕予防に貢献するとともに、地域の歯科保健衛生の啓発に努めた功績により、今回の受賞となりました。

元 松阪地区歯科医師会副会長

平成27年度 食と健康フォーラム

第7回かむかむクッキングコンクール

平成27年10月12日（月・祝）

三重県歯科医師会館



10月12日(月・祝)、平成27年度食と健康フォーラムが開かれ、“安全で美味しい「介護食」”をテーマとした第7回かむかむクッキングコンクールの最終審査及び表彰式が行われた。フォーラムでは、訪問管理栄養士として活躍されている中村育子氏が「在宅高齢者の元気を支える食事」と題して特別講演。家族の食べる食事を調理するという考え方を基本に、市販品や加工品を上手に使うことで調理時間を短縮する等、介護者の負担軽減や在宅高齢者の摂食嚥下障害、必要栄養量に配慮したレシピ等を紹介した。コンクールの最終審査では、9月の一次審査を通過した11作品について応募者自身によるプレゼンテーションと実食審査が行われ、三重県立久居農林高等学校2年・中村真綾さんによる「伊勢茶と絹豆腐のムース」が最優秀作品に選ばれた。

講演：在宅高齢者の元気を支える食事（介護予防～要介護）

医療法人社団福寿会福岡クリニック在宅栄養部栄養課課長
管理栄養士・介護専門員 中村育子氏

はじめに

福岡クリニックのある東京都足立区は高齢者率

が23%で、東京都内でも高齢化の進んでいる地域だ。高齢化はもはや地方だけの現象ではなく、都

市部でも多職種の職員が連携して高齢者を見守る体制が必要となっている。

栄養状態の悪化は、ADL（日常生活動作）の低下につながり、フレイル（虚弱）・サルコペニア（筋肉減少症）・ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を引き起こす恐れが高くなる。在宅高齢者の72.7%が栄養状態に問題があるという国立長寿医療研究センターが行った調査結果もあり、今後の高齢者の健康を考えるうえでの課題でもある。

在宅訪問の際には歯科医師と栄養士が同行し、栄養士は普段の食生活を聞き取り、高齢者の食を考え、在宅に特化した栄養指導を行っている。高齢期に必要な栄養素は特にタンパク質で、パンフレットや食品サンプル、栄養補助食品等を持参して分かりやすく説明している。食事の工夫としては、パン食には牛乳、ゆで卵、野菜ジュース等を組み合わせ、麺類が主食の時はタンパク質の多い豆腐、さつま揚げ、焼きはんぺん、魚肉ソーセージ、ウインナー、高野豆腐煮等を、ご飯が主食の時はタンパク質の多い刺身、肉野菜炒め、焼魚、煮魚、豆腐を組み合わせる－といった具合である。

介護者の介護軽減のために

家族形態の変化により独居や高齢夫婦世帯が増加し、家庭の介護力が低下している。摂食嚥下障害の問題として、嚥むことに問題を抱えていた在宅高齢患者は全体の約3割というデータもある。これからは、誰でも簡単に作れる介護食が求められている。基本は家族の食べる食事を元に調理をするが、市販品や加工品を上手に使うことで調理時間を短縮することが重要である。嚥下しやすいよう



にする方法には、▽汁物はとろみをつける▽とんかつ等は小さく切ってあんをかけたり卵でとじたりする▽パンは生クリーム等を添えてしっとりさせる▽おじや、リゾットにする－等がある。便秘気味の時は食物繊維をプラスし、食欲のない時には、ゴマ、シソ、ショウガ、ミョウガ等を使うことが効果的である。必要栄養量を確保するには、間食、おやつに栄養補助食品を取り入れる方法が有効である。

地域包括ケアの構築に向けて

今後、地域包括ケアシステムの構築により、病院・施設から在宅へ移行する患者の増加、入院医療から在宅復帰の促進が予想される。在宅訪問栄養指導の目的は、療養者宅に訪問し、生活の実態及び本人、家族の意向を把握しながら多職種と連携、家族に負担の少ない実践的な栄養指導を行って療養者の栄養状態を改善することにより、疾病やADL、ひいてはQOLを向上させることにある。特に在宅においては、療養者の好み、価値観を大切に食卓支援が求められていることを心に留めておくべきである。

高齢者に多い食事パターン

- ・単品の食事（パンのみ、餅のみ、ごはんのみ等）
- ・偏った料理（揚げ物が多い等、野菜を食べない）
- ・味付けの濃いものの組み合わせ（佃煮、煮物、しょうゆ、みそを多く使った料理）
- ・乳製品を全く摂らない
- ・おやつばかりで、食事をきちんと食べない（女性に多い）
- ・果物を食べない

在宅における栄養評価項目

- ・身長、体重、栄養状態（BMI、血液生化学検査、褥瘡）
- ・食事内容（食形態、食事量、嗜好、水分量）
- ・疾病状態（改善、悪化、服薬の増減）
- ・ADL及びQOL（日常生活動作と生活スタイル、在宅患者のADL観察）
- ・口腔内の状態（摂食嚥下、義歯調整、適正な食事形態、味覚は正常かex.亜鉛不足で苦みを感じる等）
- ・精神状態（食事に対する意欲、精神的落ち込み、睡眠の状態）
- ・排泄（便秘、下痢、食事の内容を考えるex.便秘気味なら食物繊維を増やす等）

★ 第7回かむかむクッキングコンクール審査結果



最優秀賞：伊勢茶と絹豆腐のムース
三重県立久居農林高等学校2年 中村真綾



優秀賞：soyグラタン
三重県立明野高等学校2年 下社聖奈



優秀賞：おばあちゃんを笑顔に
三重県立久居農林高等学校3年 佐藤美那



審査員特別賞：かぼちゃのつるつる煮
三重県立明野高等学校3年 萩野詩織



みえ歯ートネット通信

<http://www.dental-mie.or.jp/heartnet/>

from 障害者歯科センター

第32回日本障害者歯科学会総会及び学術大会



11月6日(金)～8日(日)、名古屋市国際会議場で第32回日本障害者歯科学会総会及び学術大会が開かれ、障害者歯科センターから齋藤センター長と歯科衛生士3名(森、中島、橋本)が参加した。主管は愛知学院大学歯学部小児歯科学講座(福田理大会長)でテーマは「治療から予防へ／そして支える歯科医療へ」。2題の特別講演の他、香港からの招待講演、2題の公開講座、一般口演、ポスターセッションと盛り沢山の内容だった。

その中で、事前アンケートの結果を踏まえて開催されたシンポジウム「障害者歯科治療における身体抑制のあり方」について触れておきたい。障害者歯科治療では、様々な心理的、生理・物理的並びに薬理的な行動調整の技法を応用、駆使して安全に良質な診療が行えるよう努めているのが現状である。近年は新しい概念の心理的アプローチや行動変容法、また静脈内鎮静法や全身麻酔等の薬物を用いた行動調整法が普及してきているが、障害者権利条約の批准国となった今日、我が国の障害者歯科治療でこれまで広く行われてきた身体抑制(体動コントロール)に関しても、改めて見直しておく必要があると思われる。

今回のシンポジウムは、現状についてのアンケート結果を公表するとともに、学会として意見集約を目指したものだだったが、今後の指針作りに向けた取組みに注目したい。

(障害者歯科センター長・齋藤 弘 記)

障害者歯科センター診療状況

10月

診療日	8日
診療担当者	常勤1名、非常勤6名 内訳・会員2名、大学4名
延患者数	131名

11月

診療日	8日
診療担当者	常勤1名、非常勤6名 内訳・会員2名、大学4名
延患者数	120名

平成27年度 東海信越地区歯科医師会等 役員合同連絡協議会

平成27年10月3日（土）
岐阜都ホテル



10月3日(土)、岐阜市内で東海信越地区歯科医師会等の役員合同連絡協議会が開かれた。この協議会は東海信越地区6県の県歯役員が一堂に会するもので、国保組合や歯科医師連盟の連絡協議会と合同で開催されており、三重県からも各団体の役員ら20名以上が参加した。来賓として挨拶に立った日歯の渡邊正臣副会長(写真右上)は、9月30日(水)に高木幹正会長らが日歯連盟会長当時の政治資金規正法違反容疑により逮捕されたことについて陳謝するとともに、第一報を受けてからの対応について説明。10月1日(木)の臨時理事会で山科副会長を代行とすること及び10月22日(木)に臨時代議員会を開くことを決めた旨を報告した。続いて日歯連盟・高橋英登会長(同左下)が登壇し、「(高木会長の逮捕について)深く反省し、おわびする」と頭を下げるとともに、今回の事態を「あってはならないつらい結果」と述べた。西村まさみ参議院議員(同右下)は10月2日(金)に東京地検の任意聴取に応じたことを明らかにし、「(日歯連盟内部では)違法性はないと判断していたとしても、社会からは(違法性が)あると捉えられている」と述べたうえで、「歯科医師連盟の存在を全員で一から見直す時期に来ている」との認識を示した。全体会議終了後には、分科会に分かれて、それぞれ多くの課題について熱心な協議が行われた。なお、来年度の連絡協議会は三重県で開催されることが決まっている。

第1分科会（時局問題）



第1分科会では、日歯・高木会長の逮捕を受け、代わって愛知県歯・渡邊会長が日歯・副会長の立場で挨拶。冒頭に謝罪の言葉を述べたうえで、逮捕後の執行部の対応について時系列に沿って説明した。診療報酬改定を間近に控えているだけでなく、医療・介護を含めた中・長期的な制度改革が

求められている時期でもあることから、日歯としての事業が滞ることがないようにしていきたいとの意向を表明。出席した各県歯会長も理解を示し、東海信越地区として当面の会務執行に協力していくことを確認した。

協議では、▽地域医療介護総合確保基金関連委託事業の状況と対策▽地域医療構想の策定状況▽地域医療介護総合確保基金（介護分）に係る計画▽日歯の各種委員会での報告・協議内容の共有化一等について意見を交わした。中でも地域医療構想及び地域医療介護総合確保基金関連事業に議論は集中。各県における行政との折衝方法や医科との連携内容が具体的に示される等、今後の事業展開を図るうえで大変参考になる内容だった。

第2分科会（医療管理・厚生共済）



第2分科会では日歯から出席した竹内理事より、▽歯科衛生士復職支援対策▽消費税10%時に向けての日歯の対応▽医療事故調査制度一等について報告があった。

協議では、医療事故調査制度への対応に主な時間が割かれた。本制度下で報告対象となるのは、

管理者が予期しなかった医療に起因する死亡等とされている。事故が歯科治療に起因するものか、偶発的に生じた併発症かの判断が管理者に委ねられている部分もあり、対応に悩むところである。竹内理事は「本制度は管理者の懲罰を求めるものではなく、医療事故の再発防止が主目的」と述べ、各県歯へ協力を求めた。

女性歯科医師に対する環境整備についても協議された。各県とも女性の会員率は現在7～9%だが、今後増加するのは間違いない。竹内理事からも、女性がいかに仕事を辞めずに続けられる環境を作るか、出産・育児への支援も含めて日歯も思案中と報告された。女性歯科医師の交流会・座談会を行っている県もあり、女性会員への環境整備を進めることが今後の課題であると感じられた。

第3分科会（学術）

第3分科会には、日歯から山崎理事が出席し、▽糖尿病患者に対する医科歯科連携▽スポーツ歯科への取組み▽県歯主催の講演会と研修会▽日歯生涯研修DVD研修の活用▽医科歯科連携に関わ

る講習会と実技講習会一等が議題に挙がり、幅広い情報交換が行われた。三重県歯からは、糖尿病協会の登録歯科医師数が少ない現況を踏まえ、他県歯での取組みについて質問。各県からは具体例



として、▽県独自に登録歯科医師制度を設け名簿を公開する▽医師会主催のメタボ健診に歯科医師を派遣して歯科健診を行う▽糖尿病協会の講演会

第4分科会（地域保健等）



第4分科会には日歯から深井常務理事が出席し、▽平成30年の医療保険・介護保険同時改定に向けての準備や政策提言▽特定健診・特定保健指導における歯科の位置付け▽在宅歯科医療の推進▽歯科における認知症対応▽生活支援プログラムの再強化―等、今後の日歯・地域保健部門の重要課題について具体的に説明された。

特に日歯は特定健診の見直しに際し歯科の質問

に歯科の演題を加える▽情報提供文書の共有化―等が紹介された。その他、糖尿病患者に対する医科歯科連携では、医科への紹介促進の目的で、かかりつけ薬剤師やかかりつけ歯科医のHbA1c測定を認めようとの動きもあることが報告された。

スポーツ歯科の分野では、各県でのインターハイや国体等の開催だけでなく、平成31年のラグビーワールドカップや32年のオリンピック開催等に向け、スポーツデンティストを中心とした全国的な組織作りが課題となっていることも報告された。

を入れるよう要望しており、都道府県歯には、①認知症対応として新基金事業等を活用した歯科医師・歯科衛生士養成講座の実施 ②在宅医療・介護サービスの一環として歯科医師の位置付け―を行政へ要望することが求められた。

協議では、①基金の内示状況と事業への影響と対応 ②後期高齢者の訪問歯科健診 ③認知症に関する事業 ④地域ケア会議推進事業 ⑤若い世代の歯科に関連する生活習慣の調査及び歯科健診の実施 ⑥事業所健診・歯科医院受診型 ⑦学校歯科保健研究大会の開催 ⑧居宅療養管理指導等を算定する歯科医療機関に対する市町村の実地指導―等、様々な課題について活発な情報交換が行われた。三重県歯からは、今年度厚生労働省のモデル事業として名張市で実施される後期高齢者在宅訪問歯科健診事業について詳細に報告した。

第5分科会（医療保険）



第5分科会では、▽基金本部への疑義照会とそ

の回答▽厚生局個別指導選定委員会と歯科医師会の関わり▽高点数個別指導の影響▽告示や通知に明記されていない事項の取扱い▽居宅療養管理指導に係る実地指導▽病名による歯管算定の取扱い―等について協議が行われた。

特に東海信越地区は全国の中でも平均点数が低い県が多くその対応を迫られているため、算定抑制につながるような高点数による個別指導や、それに関わる医療技官・指導医の問題、支払基金・

国保連合会の審査上の問題について活発な意見交換が行われた。

最後に日歯・渡邊副会長から▽かかりつけ連携手帳の利用とかかりつけ歯科医の評価▽糖尿病患者等がん治療患者以外の周術期における医科歯科

連携▽選定療養一等について報告があった。三重県歯では現在、平均点が全国でも最低レベルにある現状こそが解決すべき最大の課題として捉えており、今回の協議で知り得た他県歯の取り組み等を参考に現状の打破を図っていきたい。

第6分科会（広報・調査）



第6分科会には日歯から飯島広報委員長が出席。高木会長の逮捕により、予定していたイベントが中止される等、日歯・広報事業の一部に影響が出ていることが報告された。

協議では、対外広報・対会員広報についてそれぞれ協議。対外広報では、各県歯の工夫を凝らした取り組みが紹介された。三重県からはインターネッ

ト広告の活用について報告。ターゲットが絞り込めることや表示回数が記録される等の特徴が参加者の興味を集めた。対会員広報については、インターネットの活用と紙媒体に係る予算削減を課題として捉えている県が多いが、この分野では三重県歯では郡市会及び会員の理解もあり、順調に移行が進んでいると言えそうだ。

また、当番である岐阜県歯の配慮により、中日アド企画社から「動画市場のこれから」と題した講演が行われた。特に若年層では「YouTube」を始めとしたネット動画の視聴時間が増大傾向にあるとのこと。すでに岐阜県歯ではこうした動画コンテンツの活用に取り組んでいる。今後、歯科医師会の対外広報としての有効な利用策が検討されることになるだろう。

第7分科会（総務・災害・警察）



今回は、災害対策・警察歯科医関連についての分科会が設けられ、日歯からは西協理事が、三重県歯からは桑名理事が出席した。先の鬼怒川決壊時の日歯の対応として、被災地へ500本の歯ブラシを届けた旨が報告された。

協議では、▽警察歯科医会における組織・活動

状況等▽警察歯科活動(遺体検案作業)に使用する資機材の保有状況▽新人警察官への歯学教育のあり方▽歯科診療情報の標準化に関する実証事業▽災害時等の相互応援に関する協定書のより具体的応援計画一等について話し合われた。

三重県では長年、医科・歯科合同の警察医会を運営してきたが、今年3月をもって発展的解散とし、7月には警察歯科医会を新たに発足。遺体の身元確認等で協力する体制となったことを報告した。

災害時の相互応援については、東海信越6県で協定書を締結しているものの、より具体的応援計画を協議策定すべきではないかと提案があり、来年度への継続議題とされた。

平成27年度 歯科医療関係者 感染症予防講習会

平成27年10月25日（日）
三重県歯科医師会館

10月25日（日）、歯科医療関係者を対象とした感染症予防講習会が開かれた。この講習会は厚労省からの委託事業として全国7地区で実施されているもので、今年度、東海信越地区では三重県での開催となり、歯科医療関係者88名が受講した。講習会では、まず大阪労災病院歯科口腔外科・吉岡秀郎部長が「歯科診療に必要な感染予防対策の実情」と題して講演。手洗いの重要性や針刺し事故予防について重点的に触れるとともに、歯科診療所に必要な滅菌レベルを提示。歯科治療器材の洗浄・滅菌の具体的方法を詳しく解説した。続いて三重大学医学部附属病院輸血部・大石晃嗣准教授が「HIV感染症の基礎知識～三重県のHIV感染症の現状と課題～」と題して講演し、三重県におけるHIV患者の現状から医療関係者のHIV感染リスクについて説明。HIV患者はカンジダ症等の口腔疾患から発見されることが多いため早期発見に歯科医療関係者が大きな役割を果たすことや、潜在的に存在するHIV陽性患者に対して歯科診療所ではスタンダードプリコーションを徹底することが重要であると強調された。

（医療管理委員・中村優也 記）

歯科診療に必要な感染予防対策の実情

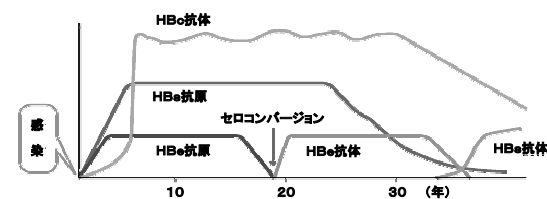
■ 歯科における感染症

歯科診療で感染する確率が高いのが肝炎である。特に血液を介するB型肝炎やC型肝炎は患者が自覚していない場合もあるので注意を要する。B型肝炎は血液や体液を介する1歳未満の水平感染と、母子間で感染する垂直感染に分けられるが、ワクチン接種により母子感染は激減している。B型肝炎ウイルスは遺伝子配列の違いによって、A～Hの8つの遺伝子型に分類される。日本ではHBV-C型が多くキャリア化しやすい。HBVキャリアにおける抗原・抗体出現時期の推移（図1）を見ると、1歳未満ではほとんどの場合感染が起これ、非常に感染力の高いHBe抗原が出現する。これは、針刺し事故では感染の危険性が高くなる時期となる。その後、20歳前後でセロコンバージョン（抗原陽性から抗体陽性への転換）によってHBe

大阪労災病院歯科口腔外科・吉岡秀郎部長

抗体に変化し、それに伴ってHBs抗原が徐々に減少、加えてHBs抗体が出現するという推移をたどる。B型肝炎はワクチンで防ぐことができるが、年齢を重ねると抗体の量が減少するため、抗体価を検査しておくことが有効である。

HBVキャリアにおける抗原・抗体出現時期の推移



B型肝炎ウイルスは遺伝子配列の違いによって、A～Hの8の遺伝子型 (genotype) に分類される。日本ではHBV-C型が多く、キャリア化しやすい。一方、HBV-B型はセロコンバージョンしやすく一過性感染となることが多く、HBV-A型は最も慢性化する。

図1



C型肝炎も血液を介して感染する確率が高い。日本では150～200万人のキャリアが存在し、1960年代までは受血者の50%が輸血後肝炎を発症した。検査ではHCV抗体やHCV-RNA量で確認するが、HCV抗体はB型肝炎ウイルスの抗体と異なり、HCV抗体の存在がC型肝炎に感染していることを表す。現在ではインターフェロン治療等の治療により一定の効果を示しているが、C型肝炎ウイルス自体が消滅するわけではないため、免疫力の低下により再び感染する可能性がある。そのため、観血的な処置を行う際は感染のリスクや血小板数の減少やプロトロンビン時間延長による出血傾向を念頭に置いておく。

結核は結核菌による空気感染の感染症で、今も全国で年間約25,000人が新たに感染している国内最大の感染症である。結核は高齢化や免疫力の低下により再び発症する可能性があるため、訪問診療先で高齢の患者が長引く咳を認める場合には注意が必要である。予防としては換気を心掛ける。

■ 感染症の予防

感染症の予防には防護具の着用が基本となる。現在はマスク・手袋・ガウン・ゴーグル・フェイスシールドの着用が世界基準とされている。

手袋着脱時の手洗いは必須である。手袋内は湿性で温度も高く、病原体が繁殖しやすい環境であることや、手袋にピンホールの可能性があるので、手袋を外す時に手が汚染される危険があるからだ。患者に接する前後に手袋を交換することでも感染症予防の重要なポイントである。手洗い(表1)の効果は、病原性微生物からの保護と手指

を介した交差感染を防ぐことにある。洗浄は水道水でも可能だが、蛇口周囲を清潔に保ち、非接触にてスイッチの操作ができることが必要となる。

手洗い

日常手洗い(予備的)：普通石鹸・流水で15秒・ふき取る

衛生的手洗い：4%クロルヘキシジンスクラブを用いて揉み洗い後、水道水で洗浄し、未滅菌ペーパータオルでふき取る。その後、速乾式擦式アルコール製剤を使用する。

手術時手洗い：手指をまず水でぬらし、4%クロルヘキシジンスクラブ、または7.5%ポビドンヨードスクラブを3～5mL手のひらにとり、揉み洗いを主体に1分間洗浄後、流水で洗い流す。爪先のみ柔らかいブラシを使用してもよい。さらに3～5mL手のひらに取り、2分間洗浄を行い、流水で洗い流す。滅菌ペーパータオルでふき取る。その後、速乾式擦式アルコール製剤を使用する。

手術場手術における手洗いにおいてもいろいろな意見があり、全体の合意は得られていないのが現状である。

表1

手袋の種類は、一般的にビニール製・ニトリル製・ラテックス製がある。歯科診療で多く用いられているラテックス製の手袋は、フィット感や耐久性及びバリア効果に優れているが、ラテックスアレルギーの問題を伴い、その発生頻度は医療関係者の場合1.1～3.8%と報告されている。代用としてはニトリル製の手袋の使用が推奨される。ただし、いずれの手袋もピンホールが存在する可能性があるため、長時間の処置を行う際には手袋の交換が有効である。

■ 針刺し事故の対策

針刺しは比較的高い確率で発生する。歯科では注射針のリキャップや注射器から針を外す時に多い。診療で使用する基本セット内の器具の向きが定まっていないことにより、器具を不意に刺してしまう事故もある。対策としては、▽注射針にリキャップしない▽使用済みの針を手で曲げたり折ったりしない▽使用済みの注射針や鋭利物を運んだり廃棄する際は耐貫通性の容器に入れる▽針刺し防止のための安全機能付きの注射針を使用する▽基本セット内の器具の先を常に一定の方向に揃えておく一等が挙げられる。針刺しは予期せずに起こるため、スタッフ間でお互いに声を掛け合い予防することが一番の対策となる。

針刺し時の初期対応としては、流水と石鹸によ

る洗浄を行う。性病の可能性を考え、創傷手当と消毒及び抗菌薬の内服（ジスロマック等）も行うとよい。血液の絞り出しはエビデンスがなく必要はない。眼球が血液に暴露した場合は、流水でよく洗い流すことで十分であるが、抗菌薬の点眼や眼科への受診も必要に応じて考える。

■ 歯科治療器具・器材の消毒と滅菌

歯科治療器材の感染管理は以下のように分類される。①軟組織への侵入や骨への接触がある器材は滅菌 ②粘膜や傷のある皮膚へは接触するが、軟組織への侵入や骨への接触はない器材は滅菌もしくは高水準消毒 ③傷のない皮膚への接触がある器材は基本的にはアルコールで拭く程度でよい。

器材の一次洗浄で、血液の付いた器具や器材を即時に処理できない場合は血液凝固防止剤を用いる。ファイルやリーマーは超音波洗浄を、タービンやエンジンは注油を行う。耐熱製品は熱水（80°/10分）で洗浄後、乾燥し滅菌の行程に移る。一次洗浄に用いられるグルタルアルデヒドは発がん性物質であり、揮発性も非常に高いことから

健康障害の問題を伴う。代用として揮発性の低いフタール製剤（ディスオーパ）の使用が推奨される。

器材を洗浄する時には感染のリスクが高くなるので、キャップ・マスク・ゴーグル・プラスチックエプロン・グローブを着用し、目・鼻・口を守るバリアプリコーションを心掛ける。

印象材の消毒は、寒天やアルジネートの場合は寸法変形の問題からグルタルアルデヒドが使用できない。塩素系除菌剤を配合したアルジガード（デンツプライ三金）が有効である。ラバー系の印象材は寸法変化がほとんど認められないため、2%グルタルアルデヒド溶液や1%次亜塩素酸ナトリウム溶液に30分から1時間浸漬すればよい。石膏模型等の消毒は困難だが、次亜塩素酸溶液を噴霧して乾燥する方法が挙げられる。

感染症の予防には終わりはなく、常に意識しておく必要がある。そのためには診療所全体での協力が不可欠であり、情報を共有しシステム化することが重要である。

HIV感染症の基礎知識～三重県のHIV感染症の現状と課題～

三重大学医学部附属病院輸血部・大石晃嗣准教授



■ 三重県のHIV感染症の現状

現在、日本のHIV感染者とAIDS患者は約2万人存在する。性別では男性が多い。感染経路は▽異性間の性的接触▽同性間の性的接触▽静注薬物の使用▽母子感染—等があるが、性的接触によ

る感染が非常に多い。都道府県別では、東京・大阪・愛知の順で多く、都市部に集中している。三重県は全国の中では少ない方だが、現在236人のHIV感染者やAIDS患者が把握されており、徐々に増加傾向にある。北勢では外国人の割合が高く、南勢では日本人の割合が高い。外国人ではブラジル人の割合が高く、北勢地域にはトヨタや東芝等の関連工場が多いことが理由と考えられる。三重大学医学部附属病院では、男性患者の約90%が日本人で、女性患者は主に外国人の配偶者が多い。男性患者では同性愛者の傾向が強く、高齢化してきているのが特徴である。

■ HIV感染症の正しい知識

HIVとAIDSは区別されている。HIVがhuman

immunodeficiency virus（ヒト免疫不全ウイルス）の略であるのに対し、AIDSは、acquired immunodeficiency syndrome（後天性免疫不全症候群）の略で、HIV陽性患者がAIDS指標疾患の一つでも発症した場合を表している。HIVに感染すると白血球の一種であるCD4リンパ球に感染し、CD4が徐々に破壊される。CD4リンパ球は免疫を担当する司令塔の役割を果たしているため、これが減少すると免疫力の低下をきたし、日和見感染やウイルスの再活性化が起きる。

HIV感染の初発症状は、ニューモシスチス・カリニ肺炎が最も多いが、風邪に近い症状を認めるためHIV感染の判断が難しい。また、口腔カンジダ症も比較的高い割合で認められる。健康でかつ既往歴がないような人にカンジダ症を認める場合には、HIV感染の一つの判断材料となる。また、急性B型肝炎をきっかけにHIVが発見されることもある。急性B型肝炎とHIVはともに性感染症で、なおかつ重複感染であるため、成人で急性B型肝炎である場合はHIV感染の可能性を考える。

HIV感染者やAIDS患者の約80%は何らかの口腔症状を有している。HIVに感染すると唾液の分泌量が減少するため、う蝕に罹患しやすくなる。また、口腔症状はHIV感染の早期発見所見やAIDS発症の指標として重要となる。特に口腔カンジダ症や口角炎はHIV感染症の初発症状として発現するため歯科医師が発見する場合も多い。

CD4リンパ球数と口腔症状の関係は以下のようになる。500/ μl 前後：口腔毛様白板症や帯状疱疹／400/ μl 前後：口腔カンジダ症／100～200/ μl ：カポジ肉腫及び帯状歯肉紅斑／100/ μl 以下：壊死性潰瘍性歯肉炎・歯周炎、アフタ性口内炎。

HIV感染者では口腔ケアも重視される。米国の研究者らは、歯周病に関与する細菌の副産物が休眠T細胞中のHIVを再活性化し、ウイルスの複製を引き起こすことを発見した。この発見により、重度の歯周病のあるHIV患者の唾液及び血漿中で残存ウイルスレベルが高い理由が説明され、HIV患者が歯周病治療により有意に利益を得られることが示唆された。

■ HIV感染症の治療

HIV感染症の治療は日々進化している。HIVには抗レトロウイルス療法(ART)が行われるが、投薬量は年々減少し、現在では主に一つの錠剤を一日一回飲めばよいとされるSTR（Single Tablet Regimen）が主流となってきている。これによってHIV感染症を慢性疾患として扱うことさえも可能となってきた。

治療の時期は、早期に診断し早期に治療を開始することが望まれる。早期治療によりHIV量は減少し、CD4の数も約95%回復することから死亡率が低くなる。さらに、パートナーへの二次感染を予防する報告もあるため早期治療が重要視される。しかし、日本では抗HIV薬の長期投与による副作用の問題から、CD4の値が500/ μl 以下でないと治療が開始できないのが現在の課題である。

治療上の最も大きな問題に薬の飲み忘れが挙げられる。中途半端な服薬は早期に耐性を誘導する。耐性を獲得したウイルスに対する治療効果は、最初の組み合わせに比べ、低下する場合のあることが指摘されている。治療を成功させるためには、アドヒアランス（医療関係者の指示に盲目的に従うことなく、患者自身が治療や服薬の必要性を理解し、自分の意志で服薬を継続する）を維持させ、医療チーム全体で取り組むことが必要となる。

また、HIVの治療費が高額になるといった問題もある。これには身体障害者の認定や自立支援医療の活用により医療費を抑えることも必要である。

■ より良い連携を築くために

HIVは感染力が低く健常者には感染しない。また、HIVの感染経路はほとんど性交渉による感染であるため、診療時における針刺しや切創による感染率はわずかに約0.3%である。HIVに対する正しい知識を持てばB型肝炎患者の治療と遜色ないと言えるが、やむを得ず治療が不可能であるならば、大学病院を紹介するといった責任が生じる。かかりつけ歯科医として、HIV感染者やAIDS患者の人権を尊重する行動が望まれる。

平成27年度 社会保険指導者研修会

平成27年 9月25日（金） 日本教育会館 一ツ橋ホール

地域連携とかかりつけ歯科医の関わりについて研修

9月25日（金）、東京一ツ橋の日本教育会館で、厚生労働省と日歯の共催による平成27年度社会保険指導者研修会が開かれ、前田理事・川瀬理事・井上理事・浜瀬理事が出席した。午前は厚労省保険局・田口円裕歯科医療管理官と日歯・遠藤秀樹常務理事がそれぞれ講演。午後は「地域連携とかかりつけ歯科医の関わり」をテーマにした研修が行われた。研修では、まず首都大学東京の星 旦二名誉教授が「なぜ、かかりつけ歯科医がいると長生きか」と題して講演。その後、地域における医科歯科連携について岩手と京都から事例発表が行われた。



（理事・井上 博 記）



研修会の冒頭、主催者代表として厚労省・唐澤剛保険局長、日歯・高木幹正会長がそれぞれ挨拶を行った。

唐澤局長は、27年5月に成立した医療保険制度改革法を、持続可能な医療保険制度を確立するためのものと位置付け、30年度からスタートする医療保険改革は国民健康保険への財政支援と、国民健康保険の財政と運営責任を市町村から都道府県に替えることが中心であると説明した。また、新たな選定療養や患者申出療養の創設等について歯科医師会に理解と協力を求めた。歯科医療を取り巻く現状としては、8020達成者の増加や小児

う蝕指数の減少について評価したうえで、「国民の歯の健康状態は向上しているが、高齢化の進行に伴い、歯科を受診する高齢者や有病者への対応が重要になっている」と述べた。また、全ての国民が住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしを送るための環境整備として「地域包括ケアシステム」を構築していくことが厚労省の大きなテーマであるとし、その観点から26年度診療報酬改定で在宅歯科医療に関する評価を行ったと述べ、その成果を検証したうえで次期診療報酬改定では、より質の高い歯科診療や医科歯科連携の評価を検討したいとの意向を示した。さらに、食べる喜び・話す楽しみといったQOLの向上のためには口腔機能の維持向上が重要であり、歯科医療においては、従来の口腔の形態に着目した医療から口腔の機能に着目した医療にシフトする必要があるとし、次期診療報酬改定において口腔機能低下への対応・う蝕や歯周疾患の予防推進・かかりつけ歯科医に対する機能評価等を重視すると述べた。今回の研修会のテーマである「地域連携とかかりつけ歯科医の関わり」については、地域包括ケア

における歯科医療の位置付けを示し、多職種連携の核としての活躍を期待しているとして挨拶を終えた。

高木会長は、日本が人口減少・超高齢社会へと進んで行く中で、国が提示した社会保障と税の一体改革や骨太の方針、健康寿命の延伸と医療費の適正化を柱に発足した日本健康会議等について説明。地域医療に関しては、地域包括ケアを念頭に置き、地域完結型医療・チーム医療をキーワー

ドに、かかりつけ機能を中心にした多職種連携・機能の分担強化を行うことが重要との認識を示し、安全・安心・質の高い医療を提供する体制作りが推進される中で、国民の健康と幸福に貢献するために、歯科がどう参加するかが大きな課題であると述べた。直近に迫った診療報酬改定については、国の方向性を見極めながら必要な研修等を実施するとともに、歯科界の意識改革や環境改善に取り組む姿勢も強調した。

講演：最近の社会保険を取り巻く状況について／厚労省保険局・田口円裕歯科医療管理官

田口管理官は、28年度診療報酬改定のスケジュールについて説明。11月下旬から12月上旬に社会保障審議会の基本方針が策定され、12月下旬には内閣が予算編成過程で診療報酬の改定率を決定する。現在、中医協では26年度改定の検証を踏まえ、28年度改定への議論が始まろうとしているところで、医療経済実態調査の結果報告等を受けた後に具体的な審議を行い、2月中旬には厚労相に改定案を答申、3月上旬に改定に係る告示・通知が発出され、4月1日に施行される見通し。

診療報酬改定の基本方針については、9月11日（金）の社保審・医療保険部会の資料が示され、改定に当たっての基本認識として、①超高齢社会における医療政策の基本方向 ②地域包括ケアシステムと効率的で質の高い医療提供体制の構築 ③経済・財政との調和の3点が挙げられた。次いで、同・医療部会で議論されている医療提供体制改革の観点からの主な論点として、医療需要の変化への対応や医療従事者の確保を挙げた。

中医協における26年度改定の結果検証に係る特別調査で、歯科関係分野では、①同一建物同一日の訪問診療等の適正化による影響 ②周術期の医科歯科連携 ③訪問歯科診療の評価及び実態一等

に関する調査が行われた。歯科訪問診療の患者総数及び診療を行った日数の平均は改定後に増加。要介護度については、同一建物で一人の患者に対する歯科訪問診療で要介護度5の患者が多く、訪問のきっかけとしては、医療機関や訪問看護ステーションからの紹介は少なく、施設入居者・家族からの要望が46.3%と最多だった。また、周術期口腔機能管理における医科歯科連携の状況については、全体で40%の病院で連携が行われており、病床数が多いほど連携も多くなる傾向を示した。逆に連携していない理由として、連携を行う際の歯科医師の受け入れ態勢が確保できていないことが挙げられた。その他、在宅医療を専門に行う保険医療機関や外来応需体制の運用のあり方についての議論の状況を示した。

歯科医療サービスの提供体制の変化と今後の展望については、団塊の世代が75歳に達する2025年のイメージを示し、歯の形態回復を主体とした医療機関完結型の歯科医療から歯の形態回復に加え、口腔機能の維持・回復の視点も含めた地域完結型医療における歯科医療提供体制の構築が必要と述べた。

講演：診療報酬改定に向けて～歯科医療の現状と課題～／日歯・遠藤秀樹常務理事

遠藤常務理事は、「私たちが目指すものは、口腔機能維持向上を通じた健康寿命の延伸やQOLの維持向上である」と述べ、具体的な課題として

▽地域連携での歯科主治医のあり方▽在宅医療における歯科のあり方▽機能の維持管理の取扱い▽機能低下に対する歯科対応一等を挙げた。

次いで医療費統計から見える歯科の状況について、医療費・レセプト枚数・実日数等の26年度の状況や12年度と26年度の比較等を示して分析。「歯科医師過剰で歯科医療費が伸びている」との新聞報道に対しては、歯科診療所数は頭打ちになってきており、患者受診率の増加や患者の健康に対する意識の高さ、さらには金パラ高騰の影響が医療費の伸長の原因であるとの見方を示した。また、1日当たりの歯科医療費の対前年増加率の経年推移を示し、診療報酬改定のある偶数年は伸

びるが改定のない年はほとんど自然増がないことを指摘。その理由として新技術・新材料等の期中導入がないことを挙げた。

かかりつけ・主治医機能については、日本歯科総合研究機構が6月に実施した調査で、歯科のかかりつけがある割合（84.4%）が、医科のかかりつけがある割合（72.8%）を上回ったことを報告。国民に広く定着しつつあるかかりつけ歯科医機能を活かして、重症化予防・口腔機能の維持に努め、国民の健康維持に貢献していきたいとまとめた。

地域連携とかかりつけ歯科医の関わり

今年度の研修は、診療報酬改定の動向もにらみながら「地域連携とかかりつけ歯科医の関わり」というテーマで企画された。まず、25年の第18回三重県歯科保健大会でも特別講演を行った首都大学東京の星旦二名誉教授が「なぜ、かかりつけ歯科医がいると長生きか」と題して講演。「歯と口腔の健康」や「かかりつけ歯科医の存在」が健康長寿の実現に寄与する可能性を示唆する調査結果等を披露した。

続いて、地域における医科歯科連携の事例発表として、岩手と京都の2地域から、それぞれ病院側及び歯科医師側の演者が登壇し、病院と歯科診療所における医科歯科連携の実際について報告した。

地域における医科歯科連携の事例発表

事例1

病院栄養管理における医科歯科連携

岩手県立中央病院・宮田 剛 医療安全管理部長・救急医療部次長

宮田氏は冒頭、1970年に米国で始まったNST（栄養サポートチーム）について紹介。栄養状態の改善は医師だけでは限界があり、チームで連携することで感染性合併症の減少にも効果が期待できると説明した。また、どんな病気でも原疾患の重篤化により、運動量の減少→食欲の低下→低栄養→さらに体力低下という負の連鎖が起こりうると述べ、全身状態の悪化は嚥下機能の低下を引き起こすことから、院内での誤嚥性肺炎の発症率は病院の総合力を測る指標になるとした。負の連鎖を断ち切る対策としては早期からのリハビリテーションが進められており、近年は理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等の育成・雇用も増える等、患者の早期離床に役立っているが、絶食回避・

口腔ケア・嚥下訓練・転倒予防・褥瘡予防・感染対策等が実際に機能しているかどうかは誤嚥性肺炎の発症率で見えてくるとし、その中でも口腔ケアの重要性は常識となっていると述べた。

チーム医療については高知県の近森病院の状況を示し、近森正幸理事長の「情緒的なチーム医療はもういない、業務分担すればいいだけ」という言葉が印象的だったと紹介した。厚労省の検討会におけるチーム医療の基本的な考え方については、医療に従事する多種多様な医療スタッフがそれぞれの高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつ互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供することであると説明。また、岡山大学麻酔科の周術期管

理センターでの事例から、医師からの依頼を受けたNSTが医師に回答・提案を行い、医師が他職種に指示していくコンサルテーション型NSTと、カンファレンスやクリニカルパスにより包括的合意形成されたスキルミックスの診療体制についても解説した。

岩手県中央病院での地域歯科診療所との連携の取組みについては、電子カルテにより紹介機能の

簡便化が実現していること、消化器センターカンファレンスで、手術予定患者に関しては歯科受診の有無をチェックし疾患名と予定される術式を記入、地域歯科診療所に口腔ケア依頼書を郵送していることや、ビスフォスフォネート処方時のアラート機能もあり顎骨壊死のリスクから歯科受診を勧める体制ができていること等が紹介された。

NST 医科歯科連携～岩手県の実践から～

佐々木氏は講演の冒頭で、日歯8020テレビ「口腔と全身の関係」で取り上げられている、肺炎で入院した低栄養の患者が歯科治療を受け、義歯を装着したことで栄養摂取できるようになり、全身状態も改善した事例を紹介。歯科は直接的に患者の生死に関わらないと思われるため、医療現場で軽視されがちだが、栄養摂取という点で歯科は多くの高齢者の生死に関わっているとの見方を示した。

次いで岩手県の13ある郡市歯科医師会中、8つの会がNSTをキーワードとして病院と組織的連携をしていると紹介。岩手県歯会員654名のうち146名（22%）が病院と関わっているという。

佐々木氏の関わる岩手県立胆沢病院は、歯科を有しない地域中核急性期病院(352床)で、奥州市歯科医師会の5名の歯科医師が当番制でNST回診に参加し8年が経過している。毎週木曜に1名の歯科医師が参加。1回の患者数はNST回診が5～6名、歯科回診が0～2名程度で、実際の回診風景もビデオで紹介された。8年間でNST

奥州市国保衣川歯科診療所・佐々木勝忠所長

回診患者の70%に歯科的指示が行われ、内訳は口腔清掃不良が約30%、口腔乾燥は軽度も合わせると約60%、義歯に問題がみられたのは約30%だった。NST回診時の歯科の関わりは、歯科指導と歯科治療が必要な患者への対応で、かかりつけ歯科医へ往診の依頼も行っており、口腔ケア指導や義歯調整の事例が紹介された。

同じく院内に歯科のない岩手県立中部病院では、NST・血液内科・緩和ケアの歯科回診を毎週水曜の昼に実施。北上歯科医師会から1名、花巻歯科医師会から1名の計2名の歯科医師が参加し、1回で約10～14名の患者を診ている。中部病院の特徴は歯科衛生士を採用していることで、地域歯科医師会と病院の連携や、看護師への口腔ケア指導、看護師では困難な専門的口腔ケアを行っており、歯科衛生士配属後には、回診の効率が格段に良くなり、歯科往診依頼件数が増加したという。

佐々木氏はこうした経験を踏まえ、診療報酬によるしっかりとした裏支えがあれば、医科歯科連携がさらに発展するとの展望を示した。

事例2

歯科の標榜されていない病院における周術期口腔機能管理の取組み

京都九条病院消化器外科臨床栄養部・北川一智部長

北川氏は24年4月から診療報酬で評価されるようになった周術期における口腔機能管理について、患者のADLの向上・合併症の減少・在院日数の短縮・医療費の削減等の効果が報告されている

ものの、これまでの報告は全て歯科の標榜されている施設からのものだったと指摘。歯科のない病院でも周術期口腔機能管理が効果的であることが提示できれば、さらに普及することが期待できる

との考えを示した。

京都九条病院消化器外科では、外科医・麻酔科医・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・医療事務からなるチーム医療を導入。周術期口腔ケアについても、南歯科医師会の口腔ケアセンターに依頼し、歯科医師・歯科衛生士もチームに参加するようにした。同センターには12年度から義歯調整や口腔ケアを依頼しており、周術期口腔ケアもスムーズに開始することができた。実際には、消化器外来で手術前後の口腔機能管理の案内パンフレットを渡して、かかりつけ歯科がある場合はそこに紹介、ない場合には周術期口腔機能管理を担ってもらえる歯科診療所を紹介している。患者

は紹介状を持って、担当の歯科診療所に行って口腔ケアを受け、担当歯科医師は周術期口腔ケアの計画書を作成。病院の医療事務がカルテ管理と入院・手術の報告を担い、病棟看護師が歯科から送られた計画書に基づく口腔ケアを行い、術後は担当歯科医師・歯科衛生士が往診している。

これまで、約3年間で139名の周術期口腔ケアを実施してきた。歯科のない病院においても、周術期口腔ケアの導入の効果については、肺炎罹患患者数・術野部位感染罹患患者数・術後在院日数等、導入前と比較すると有意差をもって効果が見られ、化学療法後の口腔内の有害事象にも有用であることを経験していると報告された。

歯科標榜のない病院と歯科診療所との連携～地域連携とこれからの展望～

医療法人純康会 徳地歯科医院・和田智仁副院長

和田氏は、常勤歯科医師が4名いる中規模歯科診療所の一員として、どのように病院との連携を取っているのかについて講演した。

歯科のない病院と歯科診療所との周術期口腔機能管理連携がうまくいった理由としては、歯科側に口腔ケアセンターという明確な窓口があったことを挙げた。周術期における口腔機能管理の実施状況を見ると、医科歯科併設病院では取組みが進んでいるが、歯科がない病院での実施は7%にも達していない。実施していない理由としては、歯科医療機関からは、①体制確保が難しい ②医科からの依頼がないこと一などが、歯科のない医科医療機関からは、①受け入れ態勢の問題 ②管理内容と実施歯科医療機関を把握できていない一などが挙げられている。うまく連携を行うためには、医科・歯科双方の体制が整えられる必要があることが分かる。

今までの具体的な取組みについては、周術期口腔機能管理が保険収載された24年7月・12月に、医科・歯科が合同でその内容や診療報酬請求について研修会を実施し、共に理解を深めたことが功を奏したとした。周術期口腔機能管理の複雑な流れを双方が理解し、協力歯科診療所マップやパン

フレットを作成。九条病院で月1回開かれる周術期口腔ケア委員会では様々な問題について改善のための協議を行っている。

口腔ケアセンターは南歯科医師会員の協力歯科医師と訪問歯科衛生士で構成され、病診連携を支えている大きな存在である。同センターは開設当初から九条病院と歯科治療等の連携を行っており、病院及び施設担当・デイ相談事業協力担当・地域包括担当・周術期口腔機能管理担当と担当医体制が取られ、患者からだけでなく、施設やケアマネジャー、病院等からの依頼をFAXで受け、協力歯科医師へスピーディーに対応できるシステムを構築している。

京都府歯科医師会では、南口腔ケアセンターをモデルに府下18地区で訪問歯科診療の相談窓口である口腔サポートセンターを設置しているが、窓口だけでうまく連携が取れるわけではなく、急な訪問依頼や困難症例等、全てのニーズには対応しきれないため、地域歯科医師会の組織としての一定のバックアップ体制が不可欠である。さらに、今後は多様化してくるニーズ（摂食嚥下や小児在宅、神経難病、認知症等）に対応できる歯科医師の育成が必要であると締め括った。

名古屋国税局管内税務指導者協議会

平成27年10月8日（木） 岐阜市 グランヴェール岐山



10月8日（木）、名古屋国税局管内税務指導者協議会が開かれ、三重県歯からは早川副会長と、桑名理事、伊藤理事、植村顧問税理士が出席。太田常務理事も日歯の税務・青色申告委員会副委員長として参加した。

第1部前半の協議では、各県歯からの現況報告が行われ、主にマイナンバー制度に係る各県歯の準備状況の説明に時間が割かれた。この制度では個人情報の管理が大切になるため、各県歯とも講習会等で会員に周知していく予定。歯科医師国保の対応についても話題になった。

後半は日歯から出席した2名がそれぞれ講演。太田副委員長は「消費税どうなる？」と題して29年4月からの消費税率10%への引上げに向けた日歯の対応状況について解説した。日歯はこれまで、控除対象外消費税解消のための方策として非課税・申告還付制度を求めてきた。これは医療の公益性・公共性を重視したもので、患者負担や事務負担の軽減を優先した考え方である。一方、医科では四病協を中心に課税化を求める声も根強い。27年末に示された与党税制改正大綱では、抜本的解決に向けて、現在の診療報酬に含まれる消費税相当分を明らかにする「見える化」を行うと明記された。これを受け日医が設置した「医療機関等

の消費税問題に関する検討会」において財務省・厚労省・三師会・四病協の担当者が参加して議論を重ねている。しかし、診療報酬は個別の診療に係る収支から設定されたものではなく、厚労省等により「総合的に勘案」して決められたものであり、「見える化」は極めて困難であるというのが検討会での結論になりそうだ。

日歯の丸山定夫嘱託税理士は「平成27年度税制改正と歯科クリニックの経営改善」と題して、法人税・資産税・所得税・消費税についての解説を行い、東海地区の歯科診療所の経営状況を他の地区と比較しながら分析。歯科衛生士の活用により増収を図ること等を推奨した。

第2部からは名古屋国税局課税第一部個人課税課の五百田課長と中島連絡調整官が加わって、歯科医師会側の出席者と意見交換。五百田課長からは税務行政について説明があり、e-TAXの普及状況については、前年の65.5%から今年は68.2%へと上昇しており、他職種に比べて歯科は高い普及率であると報告された。中島調整官は税務調査の現況について報告。税務調査自体の数は昨年より増えているものの、一件当たりの増差税額は減少しており、重加算税も7.6%（前年11.3%）と減少したとのことだった。マイナンバー制度については、個人番号の提供を受ける際に、二つの本人確認（番号確認：番号が正しいか／身元確認：提供者がその個人番号の持ち主か）が必要であることや、扶養控除申告書の提出を受ける場合の注意点について説明があった。10月2日付で所得税法施行規則等の改正が行われ、本人へ公布する源泉徴収票や支払通知書への個人番号の記載は必要なくなったことも伝えられた。

（理事・伊藤法彦 記）

平成27年度

October

第9回理事会

平成27年10月1日（木）

三重県歯科医師会館

地域医療構想／三師会での意見交換について報告



10月1日(木)、平成27年度第9回理事会が開かれた。田所会長からは県下8地域で調整会議が開催されている地域医療構想に関連し、三師会で

意見交換を行った旨の報告があり、今後さらに連携を深めることを目的に、実務的な協議の場を設ける意向が示された。各委員会からは9月末に開かれた社会保険指導者研修会、医療事故調査制度のスタートに向けた医療安全研修会の結果、桑名市で実施予定のMIES+モデル事業及び名張市で実施予定の後期高齢者在宅訪問歯科健診モデル事業に向けた準備状況等が報告された。また、9月30日(水)に高木幹正氏が日歯連盟会長当時の政治資金規正法違反容疑により逮捕された旨、日歯から連絡があったことも報告された。

委員会事業等報告

●社会保障委員会

【事業活動】自主懇談・個別指導【出席会議】社会保険情報ネットワーク連絡協議会(9/24)、社会保険指導者研修会(9/25)【社会保障委員連絡】三重県における福祉医療費助成制度、特定保険医療材料及びその材料価格(材料価格基準)の一部改正に伴う特定保険医療材料料(使用歯科材料料)の算定、社会保険歯科診療報酬点数早見表(3)の改訂

●医療管理委員会

【出席会議】三重県健康管理事業センター理事会(9/17)、医療事故調査制度説明会(9/23)、三重県医療事故調査等支援団体連絡協議会(9/24)、都道府県歯医療安全担当理事連絡協議会、医療安全研修会(9/26)、第1回三重県医療安全推進協議会(10/1)【報告事項】平成27年度インターンシップ等事業、『三歯会報』(10・11月号)植村顧問記事「組織としてのマイナンバー

制度に係る準備について」、平成27年度特定保険医療材料・再生医療等製品価格調査の実施(依頼)、日歯院内医療事故調査費用保険、歯科相談(1件)

●学術委員会

【事業活動】第1回学術研修会(9/13)、第2回学術委員会【報告事項】研修会・講習会、医薬品関連情報(県歯HP)、研修会助成申請書(鈴鹿、松阪地区)、認定研修会申請書(三重DCLS)、第1回学術研修会アンケート結果

●公衆衛生委員会

【事業活動】児童相談所一時保護所入所者への歯科健診・歯科保健指導(9/17)【出席会議】三重県小児保健協会理事会(9/6)、桑名市教育委員会とのMIES+打合せ(9/10)、日本学校歯科医会第88回臨時総会(9/16)、いい歯の8020表彰審査委員会、第7回かむかむクッキングコンクール一次審査、平成27年度健康セミナー

(健康保険委員研修会、9/17)、四日市市民公開講座(9/27)【報告事項】平成27年度地域8020運動推進協議会の日程、8020推進月間チラシ(案)、『ママごはん』秋号、名張市後期高齢者在宅訪問歯科健診、桑名市でのMIES+モデル事業【協議事項】名張市後期高齢者在宅訪問歯科健診、8020推進員募集(後期高齢者歯科健診確認作業)、デンソー健康保険組合からの事業所歯科健診希望

●広報情報委員会

【事業活動】役員名簿発送、FM三重『はぴはぴ子育て』放送及び収録【報告事項】都道府県歯情報管理担当理事連絡協議会及びマイナンバー勉強会(11/26)、8020推進財団協力テレビ番組の案内と出演者募集、三重テレビ『歯チカラ』構成案

その他の報告

1. 障害者歯科センター報告
2. 介護保険給付審査会報告
3. 第21回中規模県歯科医師会連合会(8/27)
4. 日歯第180回臨時代議員会(9/10)
5. 平成27年度東海信越地区歯科医師会等役員合同連絡協議会(岐阜、10/3)
6. 第20回三重県歯科保健大会関係
7. 三重県警察歯科医会ウェブサイトの開設

●災害時の対応・体制に関する委員会

【報告事項】SECOM登録状況(9/29現在)、中部管区広域緊急援助隊合同訓練に係る歯科医師の派遣、身元確認研修会の開催(宮城、11/29)

●日歯委員会報告

【地域保健委員会】第43回産業医学講習会(9/4)、平成27年度歯科保健事業報告会・公募研究発表会(9/5)、歯科医師・薬剤師・看護師及び急性期病棟従事者等への認知症対応力向上研修教材開発に関する研究事業(9/7)、第1回正副委員長(企画調整部門)打合せ、第1回高齢者歯科保健・介護保険部門打合せ(9/16)【医療管理委員会】歯科衛生士復職支援対策連絡協議会担当者打合せ、第1回医療管理委員会(9/16)【税務・青色申告委員会】平成28年度日歯税制改正に関する要望書

協議事項

1. 第21回三重県歯科保健大会の開催地
2. 日歯・高木会長の逮捕報道に関する対応



議題

- 第1号：郡市会長会議の招集並びに附議事項に関する件
- 第2号：伊勢志摩サミット開催に向けた三重県民会議の取組みに対する支援について
- 第3号：2016年度日本歯内療法学会JEA研修会後援について
- 第4号：入会申請について
北出将之(桑員)、河合利浩(四日市)、西川 徹(松阪)
- 第5号：互助会入会申請について
- 第6号：互助会給付について(9/3～9/30 申請分)
- 第7号：定款第12条に該当する退会について

平成27年度

第3回郡市会長会議

October

平成27年10月29日（木）

三重県歯科医師会館

基金活用事業、計画通り実施へ

10月29日（木）、平成27年度第3回郡市会長会議が開かれた。田所会長は9月30日（水）に高木幹正氏が政治資金規正法違反容疑で逮捕されて以降の日歯の対応について説明。22日（木）の第181回臨時代議員会及びその後に開かれた臨時理事会で、12月に会長予備選挙を実施したうえで、28年3月に新執行部を選任することが決定された旨を報告した。また、地域医療介護総合確保基金（医療分）については、26日（月）に厚労省から2回目の内示があり、三重県での「地域口腔ケアステーション設備整備事業」及び「同サポートマネージャー雇用事業」が予定通り実施できる目途が立ったことを明らかにした。大杉副会長は28日（水）に開かれた中医協総会で、ジーシー社の「ファイバースト」が保険収載されることが決まったと報告。こうした「期中収載」は歯科では初めて。これまでの日歯の働きかけが実ったものとして特筆される。協議では、来年度の三重県歯科保健大会を伊勢で開催することが決定された。

会長報告



第180回臨時代議員会について

9月10日（木）に、日歯の第180回臨時代議員会が開かれた。高木執行部発足後最初の代議員会で、議長に島田 篤氏（埼玉）、副議長に豊嶋健治氏（香川）を選出した他、特別委員会の委員が承認された。東海信越地区からは予算決算特別委員に阿部義和氏（岐阜）が、議事運営委員に松崎正樹氏（新潟）が就任している。

第181回臨時代議員会について

10月22日（木）には、日歯の第181回臨時代議

員会が開かれた。これは9月30日（水）に日歯会長職にあった高木幹正氏が日歯連盟会長当時の政治資金規正法違反の容疑で逮捕されたことを受けて開催されたもの。日歯では10月1日（木）に臨時理事会を開き、山科副会長を会長代行とするとともに臨時代議員会の招集を決定。16日（金）に高木氏が辞任届を提出したことを受け、21日（水）の臨時理事会で山科会長代行を後任の代表理事（会長）に選出するとともに、現執行部全員が辞任届を提出し、臨時代議員会に新執行部選任のあり方を諮ることとした。22日（木）の代議員会では会長予備選挙を行ったうえで新たな理事及び代表理事を選出すべきという意見が大勢を占め、直後に開かれた理事会で日程等が決定された。会長予備選挙の開票は12月24日（木）。新たな理事は28年3月10日（木）の代議員会で選任され、その直後の理事会で新しい会長が正式に決まる。

平成28年度歯科保健会計予算概算要求の概要

9月11日(金)、平成28年度歯科保健会計予算概算要求の概要が公表された。「新しい日本のための優先課題推進枠」を活用し「歯科口腔保健の推進」として約15億円、歯科医療分野の情報化を推進するため「歯科情報の標準化に関する実証事業」に約2千万円が盛り込まれている。後期高齢者歯科健診については保険局計上分として前年度の6.1億円から増額した8.6億円が要求されている。

平成27年度地域医療介護総合確保基金について

10月26日(月)に平成27年度地域医療介護総合確保基金(医療分)の2回目の内示が行われた。三重県については7月の第1回内示額が9.4億

円、今回が5.4億円で合計14.8億円となる。三重県歯が行政に求めてきた「地域口腔ケアステーション設備整備事業」及び「同サポートマネージャー雇用事業」の予算も確保される目途が立った。

地域医療構想について

9月24日(木)、三師会で地域医療構想についての協議を行った。三重県の医療現場から歯科に期待されていることは、回復期及び慢性期における病床での口腔ケアだと受け止めている。今後、県医師会とも意見交換しながらそれに応えていく体制作りを検討したい。

一般会務報告

会員数

27年4月1日～10月29日の期間で入会8名、退会6名。現会員数872名。

日歯会長予備選挙三重県歯選挙人選挙について

第9回臨時理事会において、28年3月臨時代議員会終結時から29年6月定時代議員会終結時までを任期とする役員(理事)を選出することが決定されたのに伴い、日歯会長予備選挙が実施されることとなり、都道府県歯科医師会へ選挙人選出が依頼された。

(追記)

本会選挙規則に則り日歯会長予備選挙の三重県歯選挙人選挙が実施され、11月7日付で以下の7名の当選が決まった。田口昇氏(伊勢)／前田和賢氏(津)／大杉和司氏(津)／長井雅彦氏(松阪)／北川弘二氏(鈴鹿)／星野良行氏(桑員)／永田健一氏(四日市)。これに日歯代議員である田所泰氏(伊勢)と稲本良則氏(伊賀)を加えた9名が選挙権者となる。

委員会事業報告

【学術】(蛭川理事)



平成27年度第1回学術研修会アンケート結果

9月13日(日)の平成27年度第1回学術研修会には179名が参加。内容については臨床に即し

たものとして非常に好評だった。

平成27年度マウスガード講習会について

12月13日(日)、昨年に続き大阪大学の前田芳信教授を招聘する。三重県では国体等も控えているため、県民啓発を中心とした内容を予定。

【公衆衛生】(羽根常務理事)

三重県後期高齢者歯科健診中間報告

今年度の後期高齢者歯科健診について、9・10月の受診状況の報告を求める。

第20回三重県歯科保健大会

11月8日(日)に第20回三重県歯科保健大会を三重県総合文化センター中ホールで開催する(P.8参照)。3日(火・祝)～15日(日)の期間、

三重県総合博物館（MieMu）で連携交流展示『“生きる”の入り口～歯の博物館～』を併催（P.3参照）。『いい歯の8020コンクール』応募者は670名に達し、過去最高を更新。

【社会保障】（大杉副会長）



ファイバーポストの期中保険適用

10月28日(水)、中医協で「ジーシー ファイバーポスト」が新技術（区分C2）として保険適用されることが決まった。28年1月から算定が可能になる。新規材料が診療報酬改定と同時にではない「期中収載」されたことは歯科では初めて。

【医療管理】（桑名理事）

平成27年度第1回医療管理講習会

12月13日(日)に第1回医療管理講習会を開催する。内容は三重県歯・植村公順顧問税理士による「マイナンバー制度に対する民間事業者の対応について」及び日歯・小泉政幸常務理事による「医療分野におけるIT化と医療分野等ID導入について」。

日歯院内医療事故調査費用保険

10月1日付で医療事故調査制度が施行されたことを踏まえ、日歯は会員歯科診療所で医療行

為に関連した予期せぬ死亡事故が発生した場合に備えるための「日歯院内医療事故調査費用保険」を整備した（詳細は『日歯広報』第1650号P.2参照）。

平成28年経済センサス活動調査の実施

28年6月より経済センサス活動調査が行われる。調査実施への理解と協力を願いたい。

歯科衛生士の需給対策等について

今年度は歯科衛生士復職支援講習会をユマニテク医療福祉大学校で実施する予定だったが、応募が2名のみであったため、歯科診療所での研修に変更した。

【広報情報】（太田常務理事）

平成27年度「いい歯の日」関連広報事業

日歯による事業として11月8日「いい歯の日」前後に全国の地方新聞に共通フォーマットの記事を掲載する。三重県では11月1日(日)に伊勢新聞と中日新聞三重版に掲載。今年は第20回三重県歯科保健大会と『“生きる”の入り口～歯の博物館～』を県民に周知する内容とした。

三重テレビ『とってもワクドキ!』

11月5日(木)に三重テレビの地域情報番組『とってもワクドキ!』に熊谷理事が生出演する。11月3日(火・祝)の『“生きる”の入り口～歯の博物館～』初日の様子を紹介する他、8日(日)の第20回三重県歯科保健大会の告知を行う。

平成27年度最新歯科医療実態調査・調査票発送

11月中に調査票を発送する。回答締切は28年1月末。例年高い回収率を記録しているが、今回もさらに高い数字を期待したい。

その他の報告

SECOM安否確認登録状況について

10月27日(火)現在の登録状況は会員数866名中748名（86.37%）。

SECOM安否確認システム訓練結果について

8月3日(月)にSECOM安否確認システムの訓練を実施した。8月28日(金)現在の安否報

告者数は会員864名中532名（61.57%）。医療救護及び身元確認の協力可否を問うメールに対しては144名中108名から回答があった。

郡市区災害歯科医療コーディネーターについて

郡市区における災害歯科医療コーディネーターの変更の有無を連絡されたい。

全国7地区平成27年度災害歯科コーディネーター研修会について

12月13日(日)に岐阜市で全国7地区平成27年度災害歯科コーディネーター研修会が開催される。郡市会における災害歯科医療コーディネーターには参加をお願いしたい。

三重県警察歯科医会協力歯科医について



7月26日(日)に三重県警察歯科医会が設立された(『三歯会報』8・9月号P.21参照)。この会は三重県警から嘱託を受けた歯科医師(個人会員:43名)と三重県歯(法人会員)で構成さ

れているが、今後、災害時の対応のための協力歯科医の登録を検討している。28年1月以降に開催予定の警察歯科医会理事会で詳細を決定後に周知を図るが、多くの県歯会員の登録を期待している。

三重県地域医療構想調整会議への対応について

地域医療構想における調整会議は、地域の実状を踏まえ地域医療構想を作り上げていく場であり、それが地域包括ケアシステムの構築にも繋がる。地域医療構想調整会議の設置・運営に際しては「地域において優先して取り組むべき事項に関して協議する」ことが明確に謳われており、地域医療構想ができ上がる前に、▽歯科医療の重要性▽地域医療構想の策定に留意すべき歯科医療提供体制▽地域医療構想区域内での歯科診療所の役割―等について発言し、▽訪問歯科診療専用の機器の整備▽口腔ケアステーション設備及び運営のための整備▽マンパワーの確保―を求めていくことが重要である。

協議事項

第21回三重県歯科保健大会について

第21回三重県歯科保健大会は伊勢で開催されることが決定された。会場は伊勢市観光文化会

館を、日程は28年11月6日(日)を予定している。

(広報情報委員・深水陽介 記)



平成27年度

November

第10回理事会

平成27年11月5日（木）

三重県歯科医師会館

名張市で後期高齢者在宅訪問歯科健診モデル事業開始



11月5日（木）、平成27年度第10回理事会が開かれた。会合では8日（日）の第20回三重県歯科保健大会の運営について最終確認。先立ってMieMuで開幕した『“生きる”の入り口～歯の博物館～』は、天候に恵まれたこともあり、初日の3日（火・祝）だけで約700名の来場があったことが報告さ

れた。

議事では、最新歯科医療実態調査の調査票を決定。11月中に診療所の開設者である会員宛に発送される。前回23年調査の回収率は約70%だったが、21年には79%も記録しており、太田常務理事は会員の協力を得て80%超えを目指したいとした。公衆衛生委員会からは名張市での後期高齢者在宅訪問歯科健診モデル事業に向けた講習会を10月に実施した旨が報告された。同事業は11月1日（日）からスタートしており、健診結果や受診者・介護者からの評価に注目したい。また、歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール中央審査では、特別支援学級・学校の部で三重県代表の麻生和哉くん（亀山市）が優秀賞に選出されたことも報告された。

委員会事業等報告

●社会保障委員会

【事業活動】自主懇談・個別指導【出席会議】第5回社会保険疑義事項検討会議（10/1）【社会保障委員連絡】区分C2（新技術・新機能）における医療機器の保険適用について

●医療管理委員会



【事業活動】BLSヘルスケアプロバイダコース（10/18）、歯科医療関係者感染症予防講習会（10/25）、松阪地区歯科医師会医療管理講習会（10/29）【出席会議】名古屋国税局管内税務指導者協議会（10/8）、第1回三重県医療審議会救急医療部会（11/4）【報告事項】平成27年度永年勤続表彰、歯科診療所における恒常的な医療安全管理の基盤構築に関する研究、歯科衛生士復職支援対策連絡協議会報告書「歯科衛生士の復職支援に係る取組みについて」、商標登録、歯科相談（2件）

●学術委員会

【報告事項】研修会・講習会、医薬品関連情報（県歯HP）、研修会助成申請書（伊勢地区）、

平成27年度スポーツデンティスト養成講習会
医科共通 I (10/17・18)、第2回学術研修会
(抄録)

●公衆衛生委員会

【事業活動】児童相談所一時保護所入所者への
歯科健診・歯科保健指導(10/15)、第20回三重
県歯科保健大会関連イベント開催(11/3)【出
席会議】災害対応における高齢者への食支援お
よび口腔ケア研修会(10/8)、第7回かむかむ
クッキングコンクール二次審査、食と健康フォー
ラム(10/12)、三重県歯科保健大会第3回実
行委員会、第9回三重大学緩和ケアセミナー、
要介護者に対する訪問歯科健診・保健指導事業
開始に関連した講習会(10/15)、第1回在宅医
療推進懇話会(10/16)、三重県学校保健会理事
会、三重県産業保健総合支援センター産業保健
研修会、第1回三重県医療審議会健やか親子推
進部会、後期高齢者在宅歯科健診口腔ケア研修
会(10/22)、三重県社会福祉審議会高齢者福祉
専門分科会(11/4)、むし歯と生活習慣の関連
調査及び健康教育実施事業(11/5)【報告事項】
三重県公衆衛生学会抄録、歯・口の健康に関す
る図画・ポスターコンクール中央審査結果、第

7回かむかむクッキングコンクール審査結果、
むし歯と生活習慣の関連調査事業、第4回地域
包括ケア歯科医療従事者養成講座、地域口腔ケ
アステーションサポートマネージャー雇用事業
第1期分支払状況、地域口腔ケアステーション
設備整備事業の決定通知【協議事項】『ママご
はん』1月号原稿案、後期高齢者歯科健診事業

●広報情報委員会

【事業活動】FM三重『はぴはぴ子育て』放送
・収録【出席会議】第2回広報情報委員会(10
/15)、「いい歯の日」新聞広告打合せ(10/15)、
『歯チカラ』打合せ(10/22)【報告事項】「いい
歯の日」新聞広告掲載(11/1)

●災害時の対応・体制に関する委員会

【報告事項】SECOM登録状況(11/2現在)、
平成27年度災害時情報伝達訓練(桑員・四日市
・鈴鹿・亀山)について(12/1)

●日歯委員会報告

【地域保健委員会】第1回小児歯科保健・食育
部門打合せ(10/7)、第1回成人歯科保健・産
業歯科保健部門打合せ(10/14)【がん診療医科
歯科連携推進協議会】第2回運営管理委員会及
び第2回幹事会(10/21)

その他の報告

1. 障害者歯科センター報告
2. 東海信越地区役員連絡協議会各分科会(10/3)
3. 第20回三重県歯科保健大会関係
 - (1) 当日のスケジュール等
 - (2) 『“生きる”の入り口～歯の博物館～』初日
(11/3)の状況

協議事項

1. 平成28年度事業計画について
2. 会務並びに事業の運営について

議題

- 第1号：平成27年度最新歯科医療実態調査(調査票)について
第2号：入会申請について／清水みどり(四日市)
第3号：互助会給付について(10/1～11/14 申請分)

マイナンバー安全管理に関する特例措置

Q：事業者が税と社会保障分野の行政機関などへの提出書類にマイナンバーを記載することとなり、マイナンバーを適切に管理する必要があると聞きましたが、歯科医院に特例措置はあるのでしょうか。

A：平成28年1月から行政機関などへの提出書類にマイナンバーの記載が開始されます。そして、国や地方公共団体である行政機関だけでなく、民間事業者も事業規模の大小や取扱件数を問わず、マイナンバーを含む特定個人情報（以下「特定個人情報等」といいます）の漏えい、滅失又は毀損の防止その他適切な管理のために、必要かつ適切な安全管理措置を講じなければなりません（番号法第12条個人番号利用事務実施者等の責務）。

しかし、条件を満たす中小規模事業者には該当する場合は、マイナンバーの安全管理措置の特例的な対応方法が認められています。

1 特例が適用される中小規模事業者の条件

- ① 従業員数が100名以下の民間事業者であること
- ② マイナンバーに関する業務委託を受けていないこと
- ③ 金融分野の事業者でないこと
- ④ 個人情報取扱業者（5,000人以上の個人情報を保有している事業者）でないこと

以上の条件を満たしている歯科医院は、中小規模事業者には該当します。

2 番号法における原則的な安全管理措置

特定個人情報等の原則的な安全管理措置は、次の3つに大別されます。

- ① 基本方針や取扱規定といった概念に関する事項（基本方針や取扱規定の策定）
- ② 担当部署や担当者といった組織や人的リソースに関する事項（組織的安全管理措置、人的安全管理措置）
- ③ データ管理やセキュリティ対策といった実務に関する事項（物理的安全管理措置、技術的安全管理措置）

3 中小規模事業者の安全管理の特例措置

- ① 中小規模事業者においては、取扱規定に代えて既存の業務マニュアルや業務フロー図、チェックリストなどに個人番号の事務取扱担当者の明記、特定個人情報等の取扱方法・保管などを明記することで対応可能です。
- ② 中小規模事業者においては、特定個人情報等の責任者と事務取扱担当者を分けることによって組織体制の整備とすることができます。
- ③ 中小規模事業者の事務取扱担当者は、一般的には、個人番号の取得から提供又は利用（記載・入力等）、提出、廃棄までの一連の事務に従事し、物理的安全管理を担当します。マイナンバーを含む特定個人情報等が記載された書類や電子媒体は、施錠できるキャビネットで保管しましょう。そして、保存年限経過により不要になった特定個人情報等は、確認して削除・廃棄すれば事足りるとしています。
- ④ パソコンで特定個人情報データを管理する場合は、OSのアップデートやセキュリティ対策ソフトの更新の頻度を上げ、常に最新の状態にし、外部からの不正アクセスによるデータ漏えいを防止しましょう。



10月・11月会務日誌

10月

- 1日 第9回理事会、第5回社会保険疑義事項検討会議開催
平成27年度第1回三重県医療安全推進協議会に桑名理事出席
- 3日 平成27年度第1回東海信越地区歯科医師会会長・専務理事連絡協議会が岐阜県で開催され田所会長、稲本専務理事出席
平成27年度第1回東海信越地区歯科医師会役員・同国保組合役員・同連盟役員合同連絡協議会が岐阜県で開催され役員全員出席
- 8日 平成27年度災害対応における高齢者への食支援および口腔ケア研修会開催
名古屋国税局管内税務指導者協議会が岐阜県で開催され植村顧問税理士、早川副会長、太田常務理事、桑名理事、伊藤理事出席
平成27年度地域安全・暴力追放三重県民大会に田所会長出席
- 12日 第7回かむかむクッキングコンクール二次審査・表彰式、平成27年度食と健康フォーラム開催
- 13日 伊勢志摩サミット三重県民会議第2回総会に田所会長出席
- 15日 第2回広報情報委員会、三重県歯科保健大会第3回実行委員会開催
第9回三重大学緩和ケアセミナーに福森理事出席
- 16日 平成27年度第1回在宅医療推進懇話会に羽根常務理事出席
- 17・18日 平成27年度日本体育協会公認スポーツデンティスト養成講習会（医科共通Ⅰ）が東京都で開催され熊谷理事出席
- 18日 平成27年度BLSヘルスケアプロバイダコース（G2010）開催
- 22日 日本歯科医師会第181回臨時代議員会に田所会長、稲本専務理事出席
三重県准看護師試験委員会に太田常務理事出席
平成27年度第1回三重県医療審議会健やか親子推進部会、三重県学校保健会理事会、三重県産業保健総合支援センター平成27年度産業保健研修会に羽根常務理事出席
- 23日 みえ犯罪被害者総合支援センター10周年記念事業に桑名理事出席
- 25日 平成27年度歯科医療関係者感染症予防講習会開催
- 27日 平成27年度第2回三重県地域医療介護総合確保懇話会に田所会長出席
- 29日 第3回郡市会長会議、特定社保講習会開催
松阪地区歯科医師会社保講習会に大杉副会長、浜瀬理事出席
松阪地区歯科医師会医療管理講習会に早川副会長、伊藤理事出席





11月

- 3日 常務理事会、第20回三重県歯科保健大会関連イベント開催
- 4日 平成27年度第1回三重県医療審議会救急医療部会に早川副会長出席
三重県社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会に羽根常務理事出席
- 5日 第10回理事会、第6回社会保険疑義事項検討会議開催
- 7日 第20回三重県歯科保健大会関連イベント開催
第36回全国歯科保健大会が山梨県で開催され田所会長、羽根常務理事出席
- 7・8日 第32回日本障害者歯科学会学術大会が愛知県で開催され齋藤障害者歯科センター長出席
- 8日 第20回三重県歯科保健大会開催
三重県医師会トップセミナーに田所会長出席
- 10日 平成27年度第2回三重県後期高齢者広域連合運営協議会に大杉副会長出席
- 11日 都道府県専務理事協議会に稲本専務理事出席
- 12日 平成27年度南勢志摩地区地域8020運動推進協議会開催
伊勢地区歯科医師会医療管理講習会に桑名理事出席
- 14日 東海北陸ブロック歯科衛生士連絡協議会に田所会長出席
第10回子育て応援！わくわくフェスタに中井副会長出席
第13回フォーラム8020が東京都で開催され羽根常務理事出席
みえ摂食嚥下リハビリテーション研究会世話人会・第16回学術集会に福森理事出席
- 15日 学校歯科医生涯研修制度専門研修が東京都で開催され伊東理事出席
第10回子育て応援！わくわくフェスタに前川公衆衛生委員出席
- 19日 第59回三重県学校保健安全研究大会が四日市市で開催され田所会長、中井副会長、羽根常務理事、福森理事、橋本理事、伊東理事、県歯会公衆衛生委員出席
三重県北勢児童相談所における研修に羽根常務理事、福森理事、橋本理事、伊東理事出席
亀山歯科医師会社保講習会に大杉副会長、川瀬理事出席
- 20日 平成30年度全国高等学校総合体育大会三重県準備委員会第2回総会に蛭川理事出席
- 21・22日 平成27年度日本体育協会公認スポーツデンティスト養成講習会（スポーツ歯科医学Ⅱ）が東京都で開催され蛭川理事出席
- 23日 第40回睦寿会総会・親睦会開催
- 25日 中部管区広域緊急援助隊合同訓練に田所会長、熊谷理事出席
- 26日 第2回社会保障委員会、平成27年度松阪地区地域8020運動推進協議会開催
社保・国保審査委員会合同協議会に田所会長、大杉副会長、稲本専務理事、前田理事、川瀬理事、井上理事、浜瀬理事出席
都道府県歯科医師会情報管理担当理事連絡協議会に蛭川理事出席
マイナンバー勉強会が東京都で開催され蛭川理事、桑名理事出席
- 29日 厚生労働省委託事業第3回全国共通がん医科歯科連携講習会開催
第11回MCMN（三重子どものころネットワーク）に伊東理事出席



会員消息

本会会員数 (12月1日現在)

正会員第1種 (一般)	702名
正会員第2種 (勤務)	28名
正会員終身	132名
準会員第3種 (法人)	8名
準会員第4種 (直属)	2名
長期の疾病等の会員	1名
計	873名

日歯会員数 65,237名 (10月31日現在)

FAX番号変更

平澤はるみ先生 (伊賀)
(診) FAX 0595-48-7335

診療所廃止

渡部洋三先生 (鈴鹿)
西田宣生先生 (伊賀)

新入会員



しみず
清水みどり先生 (11. 5 付)
診四日市市諏訪町13-8
アトレ諏訪新道1F
ReBon Dental Clinic
電 話 059-340-5400
FAX 同 上
(四日市)



岩崎庄司先生 (四日市)
去る7月28日、お亡くなりになりました。
享年88歳

謹んでおくやみ申し上げます

新入会員プロフィール

しみず 清水みどり先生 (四日市)

1. 学歴

高校 三重県立津高等学校
大学 鹿児島大学歯学部
(平成元年度卒業)

2. 卒業後の研修先・勤務先

平成2年4月 住吉歯科 (鈴鹿市)

平成8年4月 レッツデンタルクリニック
(船橋市)

平成17年11月 中道歯科 (鈴鹿市)

3. メッセージ

初めまして、この度11月より入会させていただきました。



カナダでの語学留学や主人の仕事の関係でフランスに15年間滞在したのですが、先進各国に比し日本の歯科医師のポジションの低さや患者さんの意識の違いに驚くことが多いです。歯科医師過剰と言いますが、ご存知のように先進国の中でとりわけ日本に歯科医師が多いわけではありません。歯科界が不況なのは患者さんの意識の違いと保険制度の違いが大いにあるでしょう。

仲良しのフランス人の初老女性は車が必要な郊外に住んで、ご主人と一台の車でしたが

歯科治療に300万円は下らないお金をかけていました。歯を治療していないと下流であるにとらえられているので、日本のようにブランド品や車は持っていても歯科治療をしないという方は見かけることが稀です。

口腔内の健康状態を上げることが患者さんの生活の本当の質の向上につながるということを啓蒙し、自分自身もそれを助けるにふさわしい歯科医師として活躍していきたいと願っております。皆様のご指導のほどよろしくお願い致します。



三重県歯科医師会無料職業紹介所について

三重県歯科医師会では厚生労働大臣の許可を受けて、歯科医療技術者（歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士・歯科助手）を対象とした無料職業紹介事業を行っています。職業紹介を希望される場合、求職は働く意欲がある方なら常勤、パートを問いません。申し込みにより希望と能力に応ずる職業に速やかに就くことができるよう極力お世話をいたします。

●求職者の場合

- ・ 所定の求職票に必要事項を記入し、下記の無料職業紹介所に提出する。
- ・ 来館または電話にて、求人者の閲覧をする。
- ・ 条件が合えば面接を行う。

●求人者の場合

- ・ 所定の求人申込書に必要事項を記入し、下記の無料職業紹介所に提出する。
- ・ 来館または電話にて、条件の合った求職者を探す。
- ・ 合否結果については、当紹介所に結果報告する。



※ 下記へ連絡いただければ関係書類を送付します。

公益社団法人 三重県歯科医師会
歯科医療技術者等無料職業紹介所
〒514-0003 津市桜橋 2 丁目120-2
TEL 059-227-6480

詳しくはWEBで！

[検索](#) [三重県歯科医師会無料職業紹介所](#)



告知板

Information

口もとの若さと美しさを保つ アンチエイジングの実際

～口もとと体幹はつながっている～



10歳きれい! 10年後もきれい! そうです、
年をとってもいつまでも若く美しい
口元・顔・全身を保ちたいというのは万人の願いです。
そんな願いをかなえる宝田式エクササイズを
一緒にしてみませんか?

平成28年3月6日(日)
午後1時30分開演(午後1時開場)
桑名市民会館 2階小ホール

入場無料・申込不要

手話通訳・磁気テープ・要約筆記あり

講師／宝田 恭子先生

1956年東京都生まれ 東京歯科大学卒業、同保存科勤務後、宝田歯科三代目を継承する。日本アンチエイジング歯科学会副会長。認定バクテリアセラピスト、メディカルアロマセラピスト研究会、日本睡眠改善学会、認定睡眠改善インストラクター等。
現在も毎日診療を欠かすことなく、著作、講演会活動の他、「いっぶく」「日経おとなのOFF」「ソロモン流」「徹子の部屋」「おしゃれ工房」等さまざまなテレビ番組に出演。

【著書】

・5つの姿勢がキレイを作る ・ねこ背を直せば、顔が若返る
・宝田式すっきり若顔!エクササイズ、その他著書多数

今や雑誌やテレビで大活躍中の宝田先生。
診療室の来院患者さんの平均年齢は63.4
歳。アンチエイジングと義歯を中心とした
日々の診療で、患者さんから絶大な支持を
得られている宝田恭子先生式健康法で
いついつまでも「健口美」をめざしましょう!

〈講演会と併設して開催〉

お口いきいきコーナー 12時～13時30分

- ・口臭測定
- ・お口の中の細菌測定
- ・お口の中の細菌顕微鏡観察
- ・舌圧測定
- ・お口の湿度測定
- ・かぶせもののできるまで
- ・口腔ケア用品展示説明
- ・お口の相談コーナー



日本歯科医師会PRキャラクター
よ坊さん(三重県)



主催
問合せ先

桑名市役所中央地域包括支援センター
一般社団法人桑名歯科医師会

☎0594-24-5104

☎0594-22-3517



第2回 医科・歯科連携推進人材養成研修会の開催について

三重大学医学部口腔・顎顔面外科学教授 新井 直也

三重大学医学部附属病院がんセンター長 中瀬 一則

伊勢赤十字病院歯科口腔外科部長 野村 城二

近年、がん診療における医科と歯科の連携の有用性が広く認識されています。三重県では本年度より、「三重県がん対策戦略プラン」の一環として医科・歯科連携を推進するための人材養成研修会を開催しています。研修会は全4回を予定しており、今回は第2回目を下記のごとく開催する運びとなりました。日常診療で口腔ケアにかかわっている方はもちろん、今後かわる可能性のある看護師、歯科衛生士の方々をはじめ、多くの関係者にご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

第2回 病院内で行う抗がん剤・放射線治療時の口腔ケア

1) 開催日時：平成28年2月6日(土) 13時より(17時終了予定)

2) 会場：伊勢赤十字病院(やまだホール)

3) 内容：教育講演 三重大学医学部附属病院がんセンター長 中瀬 一則先生

造血幹細胞移植を含めたがん化学療法の実際と口腔領域合併症

伊勢赤十字病院放射線治療科部長 不破 信和先生

頭頸部放射線治療の現状と今後

特別講演 大阪医科大学口腔外科学教室 植野 高章教授

がん治療における周術期口腔機能管理(口腔ケア)の役割

発表 1. 松阪市民病院歯科口腔外科歯科衛生士 宮崎 くみ子先生

がん化学療法の患者を対象とした周術期口腔機能管理について

2. 伊勢赤十字病院歯科口腔外科部長 野村 城二先生

当院での抗がん剤・放射線治療時の口腔管理

4) 参加資格：口腔ケアに携わる(予定のある)関係者等

5) 参加費：無料

6) 申し込み先：施設ごとでFAX、E-mailにてお申し込み下さい。

申込書は三重県歯科医師会ホームページ研修会・講習会一覧よりダウンロードできます。

<http://www.dental-mie.or.jp/kankeisya/28.02.06koukukea.pdf>

※事前に質問等を、申し込み時に記載して下さい。研修会の質疑応答セッションで回答いたします。

*定員130名 定員に達した時点で締め切りとさせていただきます。

事務担当者：三重大学医学部附属病院がんセンター 河村・岡田

TEL 059-231-5055/FAX 059-231-5348

E-mail gan-center@mo.medic.mie-u.ac.jp



会員の広場

Member's Plaza

第40回睦寿会総会・親睦会開催

(ホテルグリーンパーク津)

11月23日(月・祝)、第40回睦寿会総会並びに親睦会が、ホテルグリーンパーク津にて行われました。当日は、あいにく雨の予報でしたが、なんとか降られることもなく無事開催の運びとなりました。会合には15名の睦寿会会員と県歯役員、県歯福祉厚生委員、顧問、事務局とで総勢29名が出席しました。

まず総会では、稲本専務理事の司会進行の下、田所会長より挨拶があり、最近の日歯の情勢、在宅医療に対する歯科の役割についてお話がありました。続いて顧問の田中勇雄先生(桑員)より出席者に対して御礼の挨拶がありました。

その後、4名の物故会員に黙とうが捧げられ、続いて稲本専務理事より本日の出席者紹介、年末から年始にかけての県歯事業報告・事業予定の説明がありました。また、本年度睦寿会に入会された中村伸也先生(津)より挨拶がありました。

ロビーにて出席者全員の集合写真を撮影した後、伊藤理事の司会で親睦会へと移り中井副会長の開会の挨拶、山根監事による乾杯で開宴となりました。今年で104歳になられた鈴木長八郎先生をはじめ、お元気な会員方はおいしい食事に舌鼓を打ち、お酒も交えながら懐かしい出来事や今に至るまでの話に花が咲き、楽しい2時間があっという間に過ぎました。最後に、大杉副会長が閉会の辞を述べお開きとなりました。

(福祉厚生委員・山下知彦 記)





互助会の現況

(27年10月1日～31日)

第1部（疾病共済）

入会 2名 退会 0名 累計 737名

収入累計	195,827,618円	{ 繰越 195,827,618円 入金 0円
支 出	780,000円	

残 高	195,047,618円	定期	138,000,000円
		普通	57,047,618円
		国債	0円

療養給付：3名

死亡給付：0名

第2部（火災・災害共済）

入会 2名 退会 0名 累計 745名

収入累計	160,846,338円	{ 繰越 160,845,874円 入金 464円
支 出	200,000円	

残 高	160,646,338円	定期	110,690,000円
		普通	49,956,338円

(27年11月1日～30日)

第1部（疾病共済）

入会 0名 退会 0名 累計 737名

収入累計	195,047,618円	{ 繰越 195,047,618円 入金 0円
支 出	1,440,000円	

残 高	193,607,618円	定期	138,000,000円
		普通	55,607,618円
		国債	0円

療養給付：5名

死亡給付：0名

第2部（火災・災害共済）

入会 0名 退会 0名 累計 745名

収入累計	160,646,750円	{ 繰越 160,646,338円 入金 412円
支 出	0円	

残 高	160,646,750円	定期	110,690,000円
		普通	49,956,750円

平成27年6月診療分歯科診療報酬状況（三重県）

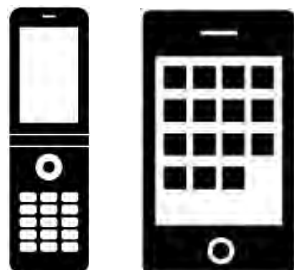
		社 会 保 険			国 民 保 険		
		1件当数 日 数	1日当数 点 数	1件当数 点 数	1件当数 日 数	1日当数 点 数	1件当数 点 数
一 般	本 人	1.8	646.5	1,136.7	1.9	644.4	1,195.0
	家 族	1.6	598.5	940.1			
後期高齢者医療		—	—	—	2.0	681.0	1,342.4

平成27年7月診療分歯科診療報酬状況（三重県）

		社 会 保 険			国 民 保 険		
		1件当数 日 数	1日当数 点 数	1件当数 点 数	1件当数 日 数	1日当数 点 数	1件当数 点 数
一 般	本 人	1.7	650.2	1,135.3	1.8	649.2	1,192.2
	家 族	1.6	601.2	934.7			
後期高齢者医療		—	—	—	1.9	678.8	1,316.4

◎三重県歯科医師会会員の皆様へ

いざという時、スマホや携帯で安否情報を伝える！



**三重県歯科医師会では大規模災害発生に
備えた安否確認システムを導入しています。
登録のご協力をお願いします。**

三重県歯科医師会では、大規模災害発生時に会員と本会及び各郡市歯科医師会との連絡手段の一つとして、(株)セコムトラストシステムズが提供する「安否確認サービス（e革新きずな）」を導入しています。このシステムは、メールやWeb、音声電話を利用する双方向の情報伝達・集計システムで、自然災害や新型インフルエンザによるパンデミック等の緊急事態が発生した場合に、「会員・家族の安否確認」や「対策要員の緊急招集」「安否確認後の行動指示」等、初動対応の迅速・効率化に活用されるものです。システムの運用に当たっては、会員の皆様にメールアドレスをご自身で登録していただくことが必要になりますので、ご協力をよろしくお願いします。

登録方法等は三重県歯公式ウェブサイト会員用ページに掲載されていますが、ご不明な点等がございましたら三重県歯科医師会事務局（TEL：059-227-6488）までお問い合わせ下さい。

三重県歯科医師会メールマガジンをご登録下さい



三重県歯科医師会では、会員配布物の「E-MAIL配信登録」を行っています。このシステムは登録者ごとに専用のメールアドレスを割り当て、冊子やポスターを除くほとんどの文書をデータ配信するものです。E-MAIL配信登録者には、併せてメールマガジン（メルマガ）も配信されています。メルマガは毎週水曜日に配信され、三重県歯科医師会事業の最新情報や月間スケジュール、ウェブサイトの更新情報、学術関連情報、さらに毎月の歯科関連ニュースをまとめた「News Clip」等をお届けしています。

E-MAIL配信の登録方法は三重県歯公式ウェブサイト会員用ページをご参照いただくか、三重県歯科医師会事務局（TEL：059-227-6488）までお問い合わせ下さい。また、一度登録してもパソコンの買替時等にメールソフトでのアカウントの移行が行われていないとメルマガが配信されなくなる場合があります。もし、メルマガが届かなくなっている場合には、ご使用のパソコンの設定をご確認下さい。

三重県歯科医師 国民健康保険組合

MIE DENTIST NATIONAL HEALTH INSURANCE UNION

東海信越地区歯科医師国保組合役員連絡協議会、岐阜で開催



10月3日(土)、岐阜都ホテルで東海信越地区歯科医師国保組合役員連絡協議会が開かれ、武田理事長と熊谷常務理事が出席した。協議会に参加した東海信越6県のうち、愛知・岐阜・三重の3県

では歯科医師国保を独自運営しているが、新潟・長野・静岡の3県は全国歯科医師国保組合（全国歯）に支部として所属している。今回の会合には、全国歯科医師国保組合連合会（全歯連）の山口誠一郎会長と、全国歯の尾上徹会長がそれぞれ出席した。

協議では、マイナンバー制度に係る各県の対応と現状を報告。次いで国庫補助率改定に伴う保険料額の変更や事業内容見直しを含む支出削減等の各県の対応を報告し、意見を交わした。また、以前からの課題である全国国民健康保険組合協会（全協）の国保組合共通システムの導入についても各県の対応が報告された。

国保組合被保険者全国大会・国保制度改善強化全国大会

11月18日(水)に国保組合被保険者全国大会が、19日(木)に国保制度改善強化全国大会が開かれ、武田理事長と熊谷常務理事が出席した。

18日(水)に永田町の憲政記念会館で開かれた全協主催による国保組合被保険者全国大会では、大会会長として冒頭の挨拶に立った全協・真野章会長が「定率補助の見直しで所得水準の高い組合の一部で減額となったが、来年度予算編成の中で継続的な激減緩和措置を要望していく」と述べた。続いて来賓として伊吹文明元衆議院議長及び参議院議員3名が挨拶、それぞれの立場で国民皆保険制度を含めた日本の社会保障を守っていく立場を強調した。また、厚労省保険局・榎本健太郎国保課長は、国民健康保険法の一部改正に伴い、国保の運営が市町村から都道府県へ移管される他、来年度から所得の高い組合の補助率の見直しが実施されることに触れ、特別調整補助金や激減緩和措

置等により各組合の財政基盤を支え、同種同業組合300万人を支援すると述べた。要望書案を全会一致で可決して大会を終えると、参加者は厚労省及び衆・参議員会館へ向かい陳情活動を行った。

翌19日(木)に日比谷公会堂で開かれた国保制度改善強化全国大会では、主催者代表の国保中央会・岡崎誠也会長（高知市長）が挨拶の中で、経済の低迷や低所得者の増加等により被保険者の所得水準が低下していることや、市町村保険料の負担率が高い構造、市町村格差等について触れた。来賓として挨拶した塩崎厚労大臣は、皆保険制度を持続可能とするため、制度の見直しや改正が必要とされていることに理解を求めた。熊本県嘉島町・荒木泰臣町長が大会宣言を読み上げた後、9つのスローガンを全会一致で決議。大会終了後には18日に引き続き厚労省及び衆・参議員会館で陳情活動を行った。

MIE DENTIST NATIONAL HEALTH INSURANCE UNION

平成27年 8 月／ 9 月

現況

保険給付状況

27年 8 月

		件 数	費 用 額	保険者負担額
療 養 給 付 費	当月分	3,347	46,678,640	32,914,178
	累 計	17,635	224,267,956	158,775,923
療 養 費	当月分	110		468,411
	累 計	534		2,220,044
高 額 療 養 費	当月分	29		1,654,542
	累 計	153		13,253,175
移 送 費	当月分	—		—
	累 計	1		89,629
出産育児 一 時 金	当月分	2		840,000
	累 計	17		7,140,000
葬 祭 費	当月分	—		—
	累 計	3		450,000
食事療養 標準負担額 減額差額	当月分	—		—
	累 計	5		130,910
傷 病 手 当 金	当月分	15		323,000
	累 計	78		3,026,000

27年 9 月

		件 数	費 用 額	保険者負担額
療 養 給 付 費	当月分	3,331	44,687,210	31,597,353
	累 計	20,966	268,955,166	190,373,276
療 養 費	当月分	110		435,090
	累 計	644		2,655,134
高 額 療 養 費	当月分	26		1,364,473
	累 計	179		14,617,648
移 送 費	当月分	—		—
	累 計	1		89,629
出産育児 一 時 金	当月分	2		840,000
	累 計	19		7,980,000
葬 祭 費	当月分	1		150,000
	累 計	4		600,000
食事療養 標準負担額 減額差額	当月分	2		1,790
	累 計	7		132,700
傷 病 手 当 金	当月分	8		255,000
	累 計	86		3,281,000

収支状況

27年度27年 9 月累計

区 分	金 額
歳 入 合 計	767,613,255
歳 出 合 計	410,595,669
収 支 差 引 残 高	357,017,586

27年度27年10月累計

区 分	金 額
歳 入 合 計	861,578,296
歳 出 合 計	512,151,547
収 支 差 引 残 高	349,426,749

被保険者異動状況

27年10月31日現在

区 分	被 保 険 者 数	前月との比較
組 合 員	2,694	△ 5
家 族	1,598	0
計	4,292	△ 5

27年11月30日現在

区 分	被 保 険 者 数	前月との比較
組 合 員	2,695	1
家 族	1,601	3
計	4,296	4

編集後記

Editor's Note

27年7月から県歯の仕事に関わることになり、10月に郡市会長会議を初めて取材、11月には三重県歯科保健大会にも参加しました。これまで自分の診療所の中だけで過ごしていた日々には得られなかった気付きが数多くあり、少し視野が広がったように感じています。今まで当たり前のように享受していたことが、様々な方たちの思案や協議のうで自分たちのところに届いていたことが分かり、そのことに感謝するとともに、自分も微力

ながら関わることができたことを嬉しく思いました。歯科保健大会では委員会のメンバーと連携を取りながら大会運営の一員として活動。大会終了後には今までよりも強い繋がりが得られたことを実感し、とても充実した一日になりました。

今後なるべく診療室に閉じこもらずに、外に出て行く機会を見つけて自分の糧にしていきたいと思います。

(広報情報委員・深水陽介 記)



次に向かう
メカラになりたい。

お気軽にご相談ください。
《資産運用・住宅ローン・ビジネスローン》

百五銀行
FRONTIER BANKING

インターネットホームページ <http://www.hyakugo.co.jp/>

FRONTIER BANKING

こども110番の歯科医院



三重県歯科医師会では、「社会貢献活動の一環」として、三重県警、三重県、三重県教育委員会の協力のもと、日本の将来を担う宝である子どもたちを守るために、平成18年6月より「こども110番の歯科医院」制度を導入しました。これは、不審人物につきまといわれたり、声をかけられたりした子どもたちが歯科医院に駆け込んできた場合、子どもを保護し、警察への通報等の対応を行うものです。

私たちは、子どもたちの笑顔を守り、明るい地域社会づくりに少しでも協力していきたいと考えています。

●「こども110番の歯科医院」の皆様へ

三重県歯科医師会では「こども110番の歯科医院 対応マニュアル ― 子供たちを犯罪被害から守るために ―」を作成しています。ご活用下さい。

●○●○●○●こどもサポート○●○●○●○

三重県歯科医師会会員の皆様へ

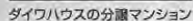
わが国では少子高齢化が進む一方で、乳幼児期、学童期の子どもたちへの虐待が年々増加しています。三重県歯科医師会が平成17年度に三重県健康福祉部の協力を得て実施した要保護児童歯科調査結果では、

虐待が疑われる要保護児童においては、う蝕経験者率が有意に高く、う蝕になった歯が処置されている率が有意に低いという結果が出ています。

歯科医療従事者は、乳幼児集団歯科健診や歯科相談、学校歯科健診、歯科診療所等において、日常的に子どもや養育者に接する機会が多く、専門家の立場から虐待の早期発見に関わるべきことが提唱されています。

本会と三重県では8020運動推進特別事業の一環として、子育て支援の観点から「歯科医の立場からの児童虐待防止と子育て支援（児童虐待防止マニュアル）」を作成しています。児童虐待の早期発見・予防の一助となるよう取り組んでいくために、ぜひご活用下さい。





この駅前を誇りに思う、優雅な暮らしを。

三重県最大^{※1}の人口を擁する四日市市。

そして県内で最も乗降客数^{※2}の多い「近鉄四日市」駅。

駅から徒歩1分、ジャスコ四日市店跡地が、新たに暮らしの舞台として生まれ変わります。

三重県初の〈プレミストシリーズ〉として、多彩な生活利便性はもちろん、

建物の細部に至るまでいつまでも語り継がれる住まいを追求しました。

〈プレミスト四日市駅前〉、優雅な駅前生活の誕生です。

「Precious First」は、かけがえのない家族との時間を大切に考えた住まいづくりを目指して、
「近鉄四日市」駅徒歩1分の地に誕生する三重県初のプレミストシリーズであることを表現したコンセプトワードです。

※1.平成22年国勢調査 ※2.出典:みえDataBox(三重県戦略企画部統計課分析情報班)平成25年度

預告廣告

本広告を行い取引を開始するまでは契約または予約の申込には一切応じられません。また申込の順位の確保に関する措置は講じられません。販売開始予定時期：平成28年2月中旬

ダイワハウスがお届けする新築分譲マンション、プレミストシリーズ「三重県初登場」

プレミスト四日市駅前

駅前を庭とする、
都心スタイリッシュ。

レストランやホールのある徒歩1分の近鉄百貨店 四日市店、
飲食・服飾雑貨・教養娯楽など、さまざまな店舗が集まったララスクエア 四日市、
雨に濡れずにお買物できる四日市一番街商店街など、
駅前の便利な環境が揃っています。



※掲載の環境写真は現地周辺を撮影(平成27年5月)したものです。※徒歩所要時間は80mを1分として算出しています。※所要時間は日中平常時のものであり時間帯により異なります。※乗換え・待ち時間は含まれません。※掲載の地図は略図のため、省略されている道路等があり、方位記号は若干差があります。

第2期予定物件概要●物件名称/フレスト4期新駅●物件の所在地/三重県四日市市諏訪栄町193番(地番)●総戸数/121戸(別途、管理事務室1戸)●今回販売戸数/未定●販売価格/未定●間取り/LDK+S(納戸)→4LDK●売主/国とハウス工業株式会社 名古屋支社 〒460-8491 愛知県名古屋市中区葵一丁目20番22号 TEL.052-933-2924 地価建物取引業者免許番号/国土交通大臣(14)第245号 建設業許可番号/国土交通大臣許可(特-22)第5279号(公)愛知県地価建物取引業協会会員(一社)不動産協会会員 東海不動産取引協議会加盟者●販売提携(代理)/株式会社リバース T102-072 東京都千代田区飯田町8-A5SKビル2階TEL.03-6272-9775宅地建物取引業者免許番号/国土交通大臣(1)第8658号(公)全国宅地建物取引業保証協会会員(公)東京都宅地建物取引業協会会員●交通/近鉄名古屋線「近鉄四日市」駅より徒歩1分、JR関西本線「四日市」駅より徒歩12分、敷地面積 1,681.81㎡●構造及び階数/鉄筋コンクリート造地上3階建て●施工会社/住友建設工業株式会社●住居専用面積/63.13㎡→105.00㎡(ラッシュルーム)面積0.33㎡・66㎡含む●バルコニー面積 102.6㎡→35.83㎡ サービスバルコニー面積 16.6㎡●テラス面積 23.40㎡・24.18㎡●ポーチ面積 2.65㎡・7.72㎡●駐車場/25台(トラック外貸貸駐車場)●駅徒歩整備地区に於けり附属遊歩台(1台/高齢者用)※駐車場は第三者の所有に係るものであり、駐車場所有者との間で使用契約の締結が必要となります。また、将来に渡っての使用を保証するものでありません。敷地外駐車場までの距離は約500mとなります●自転車庫面積 151台(平置き139台、内子ど有用12台)●バイク置場/4台(平置き)●共用トランクルーム/27区画●駐車場使用料/(月額)11,500円●自転車使用料/(月額)100円→200円●バイク置場使用料/(月額)1,000円●共用トランクルーム使用料/(月額)3,900円→6,600円●CATV使用料/(月額)275円●アーケード維持費/(月額)120円●自治会費/(月額)300円●管理形態/管理組合→管理会社(大和ライフステイス株式会社)との間で管理委託契約を締結し、工事完了予定月/平成29年3月31日/入居予定/平成29年3月下旬予定●予定販売価格(税込)/未定●予定最高販売価格/未定●予定分譲後の権利形態/敷地は区分所有●土地の権利形態/所有権●管理費/(月額)12,600円→20,900円●管理準備金/一括:16,380円→27,170円●修繕積立金/月額:6,600円→10,000円●修繕積立基金/一括:540,000円→900,000円●販売予定年月/平成28年2月/中旬●用途地域●商業地域●建築確認番号/第ER15009581号(平成27年4月24日)

※予告広告をする時点において、全ての予定販売戸数を一括して販売するか、又は数期に分けて販売するかは確定しておりません。当該予告広告以降に行う本広告において、販売戸数をお知らせ致します。なお販売戸数が未定の戸専有面積、バルコニー面積等は今後供給予定の全仕戸についてのもです。※当該物件の本広告は物件ホームページ(<http://dhsjms.jp/yokkaichi>)にて平成28年2月中旬に公開予定です。ご了承ください。



〈亮主〉

大和ハウス工業株式会社 名古屋支社 マンション事業部
愛知県名古屋市中区葵1丁目20番22号 〒460-8491 Tel 052-933-2924
建設業許可番号・国土交通大臣許可(特-27)第5279号/宅地建物取引業者
免許番号・国土交通大臣(14)第245号/(一社)不動産協会会員/(公社)愛
知県宅地建物取引業協会会員/東海不動産公正取引協議会加盟
www.daiwahouse.co.jp

お問い合わせは「プレミスト四日市駅前」マンションギャラリー

0120-414-474

このフリーダイヤルは携帯電話からもご利用いただけます。
営業時間/AM10:00~PM6:00(火・水曜定休)

ダイワ 四日市駅前

檢 索

2014年9月、 「損保ジャパン日本興亜」誕生！



損保ジャパン日本興亜

「株式会社損害保険ジャパン」と「日本興亜損害保険株式会社」は合併し、
「損害保険ジャパン日本興亜株式会社（略称：損保ジャパン日本興亜）」として、
2014年9月1日から新たなスタートをきりました。
私たちのこれからの取り組みに、どうぞご期待ください。

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

三重支店 津支社
〒514-0004 三重県津市栄町 3-115
Tel.059(226)3011 <http://www.sjnk.co.jp>

会員好評受付中！

mint

三重インターネットサービス

ブロードバンドが未来をひろく！

mintはインターネットをトータルにサポートします。

<http://www.mint.or.jp/>

お問い合わせは

MDT 三重データ通信株式会社

TEL : 059-223-1818

E-Mail : mint@mint.or.jp

Thinking ahead. Focused on life.



Soaric

人を大切にしたデザインとテクノロジーから生まれました

The New PdW Style

直感的で自然な動作での診療を可能にする、先進のトレーシシステム。
ユニットへの組み込みが可能な、マイクロスコープと根管長測定機器。
小型ボディに根管治療機能が搭載された、新開発マイクロモーター。
そのディテールに至るまで一貫して表現された、洗練のデザイン。



発売 株式会社 **モリタ** 大阪本社：大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 TEL 06-6380-2525 東京本社：東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL 03-3834-6161
製造販売・製造 株式会社 **モリタ製作所** 本社工場：京都府京都市伏見区東浜南町680 〒612-8533 TEL 075-611-2141 久御山工場：京都府久世郡久御山町市田新珠城190 〒613-0022 TEL 0774-43-7594
販売名：ソアリック 標準価格：4,543,000円～(消費税別途) 2013年1月21日現在 一般的名称：歯科用ユニット 機器の分類：管理医療機器(クラスII) 特定保守管理医療機器 医療機器認証番号：222ACBZX00016000
www.dental-plaza.com